



婦人  
と子とも

第四卷第六號

## 謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者相互の質疑應答を掲載す、但讀者の應答なき時は、記者之に應ずるものとす。

本誌は一般讀者の寄稿を歓迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但質疑投稿は、凡べて左の規則によることとす。

- 一、用紙は、白紙二つ折、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざることを。
- 一、封書の表には、凡て婦人と子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

## 會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから、其割合で女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會へ向け何ヶ月分加纏めてお納めの上、申込まれると、雜誌は當會から無代價で御送附します。會員にならないで、たい雜誌だけ買つて御讀みになりたい方は、日本橋區本石町三ノ廿三金昌堂へ御注文下さい、一冊拾錢六冊前金五拾七錢十二冊前金一圓拾錢他に郵税が一冊一錢づゝの割合です。

明治三十七年六月二日印刷  
同 年六月五日發行

不許  
複製

發行所 東京市神田區西小川町一丁目一番地  
編輯者 東京市神田區錦町一丁目十九番地  
印刷所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
發行所 女子高等師範學校附屬幼稚園内  
發賣所 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地  
金 昌 堂

大賣捌所 東京 東京堂 ● 同東海偕文會社 ● 同北隆館

# 會告

拜啓來六月十一日(第二土曜日)午後一時三十分女子高等師範學校附屬幼稚園に於て第三十三回常會相開き候間萬障御繰合せ御知友御同律御出席被下度此段御通知申上候也

追つて當日は會員野口幽香子田中文子の講話可有之候

六月五日

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

會員御中



前高等師範學校教授  
小山左文二先生著

# 日露戦争少年讀本

●本書は修身教典、修身教本及び新編國語讀本の著者として有名なる小學教科書編纂に幾多の經驗と熟練の技能とを有せらるる小山先生が日露戦争の機軸と異西亞の國情とを小學兒童に知らしめんが爲め獨特の健筆を揮つて著はされたるものにして世上ありふれざる雄辨雄毅の戰爭記と自らその戰況の概要を知らしめ忠勇義烈の精神を鼓舞作興する書物の經無なる今日本書が家庭におけるお伽話の好材料として少年子女の好讀物として大當戰役の好紀念物として大方の歡迎を受けることは本書房の堅く信じて疑はざる所なり

東京音樂學校教官  
内田象太郎  
楠美恩三郎  
岡野真一  
三先生作曲

# 定國小學讀本唱歌集

●本書は文部省の御許可を得て國定小學讀本中の韻文に曲譜を附したるものにして作曲は新道の大家内田、楠美、岡野三先生の重なる研鑽の餘に成りたるものなり、されば本書は全國各尋常、高等小學校唱歌教授上の參考書として、はた兒童用の教科書として唯一無二の良書なりとす

鹿兒島縣師範學校  
長野縣松本高等女  
學校長  
井田 竹治先生著

# 兒島藩の風教

●本書は鹿兒島縣師範學校校長野島藤太郎先生が鹿兒島藩に於ける風教の梗概を叙せられたるものなり、島津家が七百年來四方の雄鎮たりし原因が知らんとせらるる諸君鹿兒島藩より維新の大功臣の輩出せる理由を知らんとせらるる諸君及び未來の大國民を養成せんとせらるる教育者並に交見諸君は必ず本書を一讀せられんことを望む

# 家庭日用理科志るべ

●本書は現時國民の缺點なり指摘せらるる、理科的知識の缺乏を補はんがため井田先生が該博なる識見を以て著はされたるものにして日常の事物に當つて生ずる疑惑を氷解せんとする小年子女及家政整理の重任に當る良妻淑女の必ず一讀せざるべからざる良書なり

# 發兌元

賣捌所

東京市京橋區弓町十二番地

松邑三松堂

關西大賣捌

大坂市東區備後町

青岡賣文館

東京市京橋區銀座四丁目十五番地

晃山堂書房

全二冊 定價金卅五錢  
郵税金六錢

全一冊 定價金廿五錢  
郵税金四錢

(檢定出願中)  
尋常科用三冊定價 上卷金九錢 中卷金七錢 下卷金七錢  
高等科用四冊定價 各七錢

●一名健兒的教育



婦人と子ども 第四卷第六號目次

子ども

金州丸……………一

いとぶ物語……………一八

戦争のお話……………一九

面白い問答……………二〇

法螺國通信……………二二

考へ物……………二三

婦人と子ども

英國倫敦のフレーベル會……………黒田定治…三三

和歌六首……………平野後子…三三

新樹の蔭に佇みて……………雨峯生…三三

友に答へて……………全 人…三四

兒童の個性……………松本孝次郎…三五

幼稚園保育法を讀みて……………市川源三…四〇

ワナー氏の言葉と子供死亡の割

合……………四九

割烹十二月……………石井泰次郎…五〇

家庭に於ける所感……………飯塚忠次郎…五二

さま／＼……………ひらいはといた…五五

偉人の學校時代……………米 溪…五七

河野清子嬢よりの書狀……………五九

唱歌と動作……………六三

幼兒の理想……………六六

小兒に關する取調……………六七

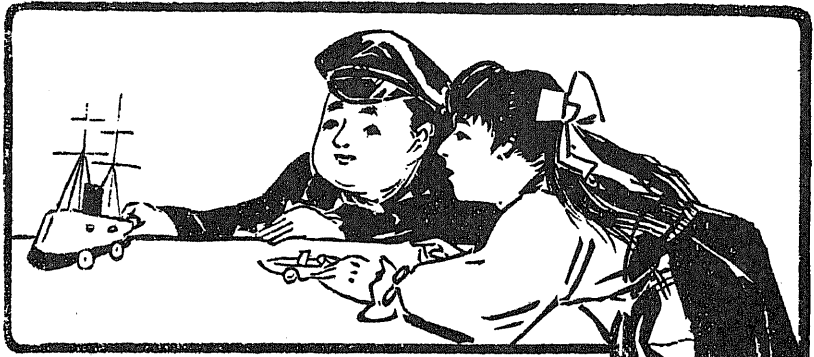
陣中佳話……………六八

フレーベル會俳句募集……………七〇

雜 報

女子高等師範學校○日本音樂會○音樂學校春期演

奏會○會報



# もど子と人婦

號六第卷四第

## 金州丸

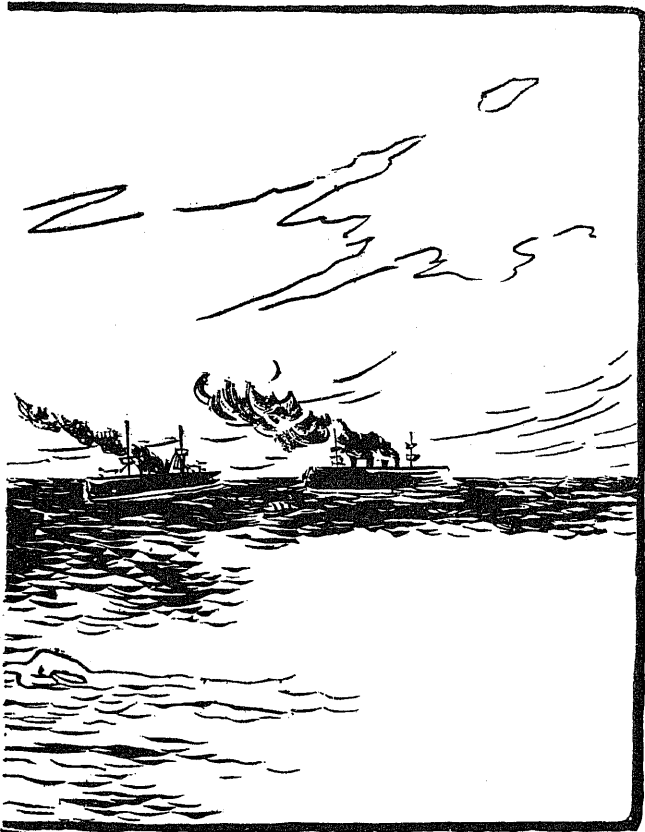
やまとの翁

小石川の金華高等小學校では、  
毎週、金曜日の午後、校長さ  
んの講堂修身のお話があること  
に決つて居ます

今日は、五月の始めの金曜日、



今しも、午後一時の鐘がなりましたので、高等科の生徒は、皆一齊に整列して、夫れく受け持ちの先生方の號令に従つて、規律正しく二列になつて、順次に講堂に入り、ました。講堂の正面には、此程名譽

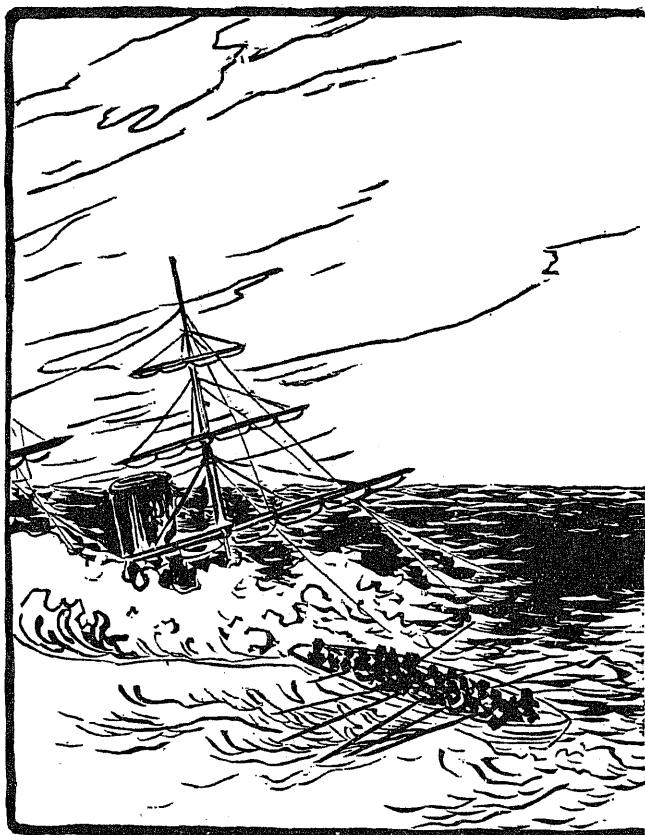


の戦死に其名を轟かせた廣瀬鬼中佐の肖像と、其横側に日本朝鮮、満州地方の地

圖が掛か  
つて居り  
ます。や  
がて、生  
徒が残ら  
ず席に着  
きました  
頃、校長  
は静かに、

口調で、次の様に話しました。

校長は極めて沈着いた、重々しい、併も明瞭した



此處に這  
入って來  
て、教壇  
に上りま  
すと、生  
徒一同は  
一齊に起  
立して、  
丁寧に敬

「皆さん、今度の日露戦争は、世界歴史中の最大事件でござり  
 ますが、夫のみならず、皆さんを教育する上から、否な吾々日  
 本國民全體の道德教育の上から見ても、實に古今に比類のない實  
 例を、澤山に吾々の眼前に供せられました。前週の日曜日には  
 私は、茲にかゝって居る廣瀨中佐……日本武士の好標本とも稱す  
 べき廣瀨中佐の忠勇につきてお話を致しました。今日は、大方  
 皆さんも、新聞紙で御覧になったり、お家でお聞になったでし  
 よう、あの元山津沖で、敵艦に出遭つて、不幸の最後を遂げた  
 我が金州丸のお話を致したいと考へます。

一體この金州丸と申すのは、軍艦ではありません、たゞの商船  
 でありまして、日本郵船會社の所有船に屬し、噸數は三千八百五

十三噸、長さが三百六十呎からありまして、去る明治二十三年十二月英國で出来上った船でございます。郵船會社の船の中なかも、一番速力の速い船でありましたものですから、今度の戦争せん争の起るに當りまして、眞先まゝき駈がけて海軍御用船の任務に當ったのであります。

時は先月の二十五日、韓國元山津守備の陸軍某聯隊に於きましては、其北方利原といふ地方の敵狀を視察の爲め、一個中隊を此方面に派遣する事になりました。そこで、我が金州丸はこの陸兵を搭載し、水雷艇隊に掩護せられて、其日の午前六時といふに、勇ましくも元山を拔はつちぎし午後二時には、早くも目的地に着しましたから、陸兵はやがてこゝに上陸し、各方面に分れて

偵察をなし、有力なる任務を全うして、皆々無事に歸船しました。六  
 たから、午後六時、やがて、其處を拔錨して歸航の途につきま  
 した。

然るに船の進航するに従ひて、天候漸く險惡となり、墨を流せ  
 る如き密雲は低くして走る事頗る急に、舷を洗ふ波さへ俄に轟  
 やとしてすさまじく、荒ぶるといふ風で何さま頗る不穩の状  
 況となりましたから、是非なく、掩護の任に當って居った水雷  
 艇隊は、遠湖島といふ島に風波を避けて、こゝに一夜を過すこ  
 とに決めまして、勇敢なる、金州丸は、こゝに單獨に、元山津  
 へ歸航することになりました。

時刻も既に其日の十二時頃、際涯もなき日本海の眞中に、風波

を蹴つて進航し來つた我が金州丸は、丁度、新埔の沖合凡そ二十哩の邊りに當つて、遙に數點の燈火を見ましたが、それが、我が艦隊が、二十三日からかけて、浦鹽方面に向つた留守中、元山津に入り來り、そこに碇泊して居つた、我が商船五洋丸を撃沈して去つた所の有力なる敵の浦鹽艦隊ならんとは、遙の遠方併も夜中の事とて、さすがの金州丸でも、とても見分けが付かなかつたでしよう。

暫くすると、敵艦隊、ロシア、グロンボーイ、リユーリックの三艦は二隻の水雷艇を引き連れて、金州丸に接近し來まして、いきなり一發の空砲を發し、つゞいて止れの號砲を發しました、何しろ、彼は有力なる三隻の戦艦に二隻の水雷艇、我はこれたゞ

一の商船、とても敵する事は出来ないものであるから、船長八木政吉氏は、言ふがまゝに船の進行を停止しました。かくと見て敵艦ロシア號からは、數人の士官一隻の短艇に乗て金州丸に漕ぎ付けまして、八木船長と何事か問答の末、船長と他に監督將校溝口海軍少佐及び飯田大主計の三人は若干の水兵ともに我短艇に乗つて敵艦ロシア號に乗り移つて仕舞つたが、どうしたのか、夫つきり何の音信も來らない。

此時までも、我が勇敢なる陸兵一隊は、上官の命令に因つて慌てず騒かず肅然として静まり返つて、船内に潜んで居りました。が、一船の運命を托する船長始め、監督將校が、敵艦に乗り移つて、仕舞つた切り、歸船しないとなつては、如何に決死の覺悟

の軍人とはいへ、敵の砲臺を乗っ取り、敵の銃鎗の下に命を落す陸軍の身の計らずも、渺茫たる海上の眞中に、敢なき水屑となるかと思へば、當時此勇士の面々の胸中は、悲痛慘憺の極みとも申しましようか、其無念さ、残念さは、とても筆にも言葉にも盡されなかつたらうと思ひます。

暫くしますと、ロシア號からは、又々一名の士官と二名の水兵とが短艇を押し來つて進んで來まして、この度は、金州丸の船室を始め、船内一々子細に點検しました末、遂に我が武装せる一隊の陸兵を發見しまして、大層驚いた風で、忽ち本船へ引き返しました。

然し、敵艦からは、兎に角一時間の猶豫を與へるといふ事なの



ですから、其間に船員は、各自短艇に乗ってロシア號を見かけて漕ぎ付けました。が、併し、我が大膽なる一隊の陸軍將士は肅然として少しも騒ぎません。

『吾々は、此船と運命を共にするのだ』

何たる勇ましい言葉でしょう、椎名中隊長を始め櫻井大尉、寺田中尉、横田中尉、檜桓少尉、鷲曹長、岡野曹長等の人々は決然として、最後の手段を講じました。中隊長は慨然として一同に向ひ。

『諸君！金州丸が最期の時期に迫つたと同時に、愈々吾々の最後の時間も迫りました。身は陸軍の軍職を奉じ敵の馬前に死すべき身の空しく、こゝ、洋中の藻屑となり果つるは、聊か残念

であるとは申せ、君國の爲敵前に死するは一つなり。忠勇なる諸君、願くは潔く覺悟を決せられよ、覺悟を決して、陛下の萬歳を祝し奉りて此船と共に沈まん』

耳を澄せば、舷を洗ふ波の音ばかり、深夜の寂寞を破つて、響き渡れる犬吠の演説は、更に一層の悲壯を増して、一隊の勇士の感慨は、更に如何ばかりか、深かったでせう。

夫では、何れも最後の用意をしよう、といふので、皆々懐にせし地圖を引き裂きすてるやら、第何聯隊といふ肩章を引きちぎって仕舞ふやら、俄かに、號令をかけて、隊を整へるやらして居る中に、はや一時間は過ぎ去つたものと見えて、敵艦から發射した魚形水雷は、見事、我が金州丸に命中したのか、爆然た

る響ひびきと共に見みるく、

船體せんたいは眞まこと二つとなり、

潮水うしほは滔と々として

十二

甲板かんばんを洗さら

ひ始めま

した。

『もう、

是迄これまだ』

と叫こゝろんだ

中隊長ちゆうたいちやうは、

怒氣どき満面まんめん

に溢あふれて、

『睨にらえ』



\* 『打うちてっ』

との號令ごうれい

の下もとに、

一隊いちたいの兵へい

士しは端然たんぜん

として、

ロシア號ろしあごう

目めかけて

一齊射撃いっさいしやく

を行やった、

しかも水

は次第々

々に嵩を

増しては

や、一隊

の膝を没

するまで

となり、

は、軍刀引き抜き、

かくと見た士官兵卒の誰れ彼れ、

ひながら一、

二、三の、

掛け聲で、

ズドンと一發、

潮風に高く



敵艦から

は、絶え

ず大砲を

打ち出し

て来る、

そこで氣

早の曹長

岡野茂逸

腹に切腹した、

胸に宛てが

潮風に高く

響かせると同時に、枕を并べて打ち斃れた、残る面々は「なあに、生命の限り、根限り、一發でも敵にくれてやらんければ」といふので、潮水の肩を浸すまで、兩手を高く上げては打つて居ましたが、間もなく敵から發した水雷一發、ズドンと響くや、船も人も大空遙に吹き上げられたが、「大日本帝國萬歲」の聲は、空中遙かに響き渡った。夫と同時に、我が金州丸は、全く姿を海中に没し去りました。此時は、丁度二十六日の午前二時近くでありました。

然し、此騒ぎの最中に於きまして、乗り込みの人夫や商人と夫から、陸兵の少しとは、短艇に乗り込んで、辛との事で敵艦に見付からない様にして、沖に漕ぎ出でましたが、非常な困苦を

冒した末、遂に馬養島に漂着して、そこから、無事新埔へ歸着したので、夫からして詳しい金州丸の事情が判然事になったのであります。

さて、一方に於ては、彼の金州丸掩護の任務に當つた水雷艇隊は、天候險惡のため、金州丸と分れて、一夜を遠湖島に明し、翌廿六日に至つて、そこを抜錨して元山津に引き返して來た所が、疾づくに歸つてなくてはならぬ金州丸は未だに歸つて居らぬ。のみならず、茲に淀泊して居つた商船五洋丸は無殘にも、港内に於て敵艦のために撃沈せられて居るといふ有様、指を屈して見ると、金州丸は歸航の途次、正しくこの敵艦に出遭つて居らねばならぬ。さては、不運にも五洋丸と同じ運命に遭つたの

ではあるまいか、もしさうとすれば、之に乗って居た、陸兵の一隊は、あはれ、船と共に沈んだか、夫とも、むぎく、捕虜となつたかに違ない。夫とも、甘く切り抜けて、陸地近くに乗り上げて、人だけは助かつたであらうか、何しろ、たゞ事ではな  
いといふ所から、上村○艦隊司令長官は、直ちに、金州丸捜索の任務を以て○隻の軍艦を派遣し、元山から浦鹽に至る沿岸一帯の海上を殘る限なく搜索させましたが、其中の一艦か、金州丸乗込員の遺物とも見られる品の這入って居る主なき一隻の傳馬船の波のまに、く漂流して居たのを発見した切り、遂に我が金州丸の消息は、沓として知れなかつたといふ事です。皆さん、我が金州丸の不幸の災難の次第は、實に此通りであり





いそつぶ物語

(五十九) 親子の蟹

或時、蟹の おつ母さんが、子蟹に申しました。

「お前なせ、そんなに、横々にお歩きなの？、真直に歩く方は、どれ程体裁がよいかも知れないよ」

子蟹は答へますに

「おつ母さん、そりやそうよ、だから、おつ母さんが真直な道を教へてくれさへすれば、私だって、

チャンと其方に歩きますわ、

おつ母さんは、これで全く閉口して仕舞ひました。

口で言うよりも、お手本が大事です。

(六十) 鼠と蛙と鷹と

いつも、地面の上で許り住んで居る鼠が、ひよとした事から、

大概は水の中で暮す蛙とお仲よしになりました、所が、此蛙先生、中々、悪者でありま

りました、

して、或日のこと、鼠の足と自分の足を、しっかりと紐で結びつけて、そして一所に遊ばうと言ひ出しました。

鼠は何の氣なしに、蛙の言ふ通りにしました。二人は、足をしばり合つたなり、あちらこちらと歩き回つて居ましたか、其中に、蛙は、だんく自分の住んで居るお池の方へ連れて行つて、其岸の所まで来た時、鼠をつれたなり、いきなり、ピョーイとお池の中へとびこみました。そして、蛙は

さも大したてがらをした様に、得意になつて、水の中をくわたり、クワツクククくと鳴いては

遊び回つたりして居ますと、可愛相に、鼠は、遊ぶ事も何も出来ませんから、もう、疾くく溺れて仕舞つて、其死骸が水の上に浮き上つて居りました。

た。

前程から、大きな鷹が、お池の眞上に舞うて居ました。鼠の死骸の浮いて居るのを見付けたとみえて、いきなり爪にひっかけて飛び上って行きました。蛙は、やっぱり、足を鼠に結び付けて居ましたから一所に、鷹に取られたといふことです。人をのろは、穴二つといふ事がある。

(六十一) 馬と獅子

或時、馬が山へ行って獅子と同盟して、澤山に獲物を捕獲する事に約束しました。獅子は、力で、馬は早く駆ける事で、互に助け合つて、利益を得ようといふ事に決めました。さて、思ふ存分に、澤山の獸を捕獲しました時に、獅子は夫を甘く分けようではないかと言ひ出して、三塊に分けました。其處で、獅子の申しますには、「己は、獸の王だから、先づ第一の塊を取つて置

くよ。そして、第二の塊は、お前と一所に働いた分け前として貰つて置くよ。夫から、第三の塊だけは、お前、喜んで己に呉れて置いて、早く家へ歸らないと、お前の爲にならないのだ」といつて、皆取つてしまいました。

力即ち正といふことがありますが、何とかいふ國は、今迄よく此獅子の様な事をしましたっけ。

戦争のお話

先月一日の鴨緑江の戦争は、殆んど前古未曾有の激戦で、敵の死傷は軍團長、師團長の負傷を始め無慮數千人に上つた位ですから、我軍に於ても、随分多數の損害を被りました。其中に、まことに運よくも九死一生を得た勇士の面白いお話があ

ります。

●吉富少尉といふ方は、朝早くから、斥候となつて、敵情を偵察し、やがて、本隊に歸るうとしました所が、敵は向う岸から之を見付けて、雨敵の様に鐵砲をうちかけました。其中、一つの丸は、ビューツと風を切つて飛んで来て、少尉の腹の真中に當らうとしたが、此時、少尉は、呼子の笛を胸に下げて居るので、丸は、其呼子に當つた爲め深く腹を打ち貫かないで、僅擦り傷で済んだといふ事です。

●又、某師團の一兵が、合戦の真最中、頭を下げて鐵砲に丸をこめようとして居る所へ、忽ち敵の撃ち出した大砲の丸の彈片が飛んで来て、見事、背負つて居た背囊に當りましたが、引き續いてバラ／＼ツバラ／＼ツと幾つとなく、砲彈を受けて

暫くの間に背囊は丸で、蜂の巢の様に穴だらけになりましたが、而し其お蔭で、此兵士の身體には少しも、傷を受けなかつたといふ事です。

●之もよく似たお話し、一兵が戦争中、敵の丸を受けたが、其丸は左の手と胸との間を通過して、背囊の片端をうちぬき、其中に入れて有つたお辨當を打ち破つたけれど身體には少しも傷がつかなかつたといふ事です。

面白い問答

ある處で、商賣人と、船頭とか出遭て、いろ／＼お話を居りました序に、次の様な問答が始まりました。

商／＼時に、お前さんのお父さんは、どこでお失くなりしました

船頭「海におちて溺れ死にましたよ」

商人「お祖父さんは、どこで」

船頭「お祖父さんも、其次のお祖父さんも、みんな海で死にました」

商人「やれ〜、そんなに皆さんが、海で死んだのに、お前さんはよく、平気で海に出られますね」

船頭「時に、あなたのお父さんは、どこでお失くなられたのですか」

商人「まあ、仕合はせと、床の上で死にましたよ」

船頭「お祖父さんは、商人「お祖父さんも曾祖父さんも、皆床の上で死にましたよ、ハイ」

船頭「やれ〜そんなに皆さんが、揃ひも揃つて床の上でお死になされたに、あなたは、よくま

あ、平気で毎晩、寢床に寝て居られますね

### 二つの鋏

或る日一人の農夫が、鍛冶屋で鋏を二丁買ってきました。そして一丁は、毎日田や畑へ持つて使ひましたが、他の一丁は使はずに買つて来たまゝ、壁にかけて置きました。其から八九個月して此の二丁の鋏を較べて見ましたら、始終使つて居る方は、ピカ〜光つて綺麗でしたが、使はずに壁にかけて置いた方は、錆だらけで汚なくなつて居ました。

### 法螺國通信

ふくべ、こまを

さて、何から前に御通信申し上げて宜しく候哉、常國に参り候ては、まことに珍らしき事ばかりに

て、何れも法螺の種ならぬは之なく、先づ、其二  
 三を、かいつまんで御知らせ申上候。  
 第一番に驚き候は、始めに宿屋へ着き候處、丸焼  
 の鳥が、併も二羽、庭中を飛び廻はり居り候事  
 に候。然る處、此國の鐵や石は、餘程奇態と相見  
 え石白や、鐵鎚が、さも輕そうに、河を流れ居り  
 候。此間も可笑しき話有之候。盲者と啞者と跛者  
 と、三人して野菟狩りに出で候由にて、先づ盲者  
 が、第一に野兔を目付け候處、啞者が早速夫を跛  
 者に知らせしに、跛者は、直ちに驅けつて行つて  
 其野兔を引つ捕へ候由に御座候。  
 モ一つ可笑しかりしは、地面に帆前船を浮べたる  
 人の話に候、先づ、平地にて十分帆を張り上げ野  
 原まで走らせ候はよかりしも、山を越へようとし  
 て船轉覆し、とう／＼其爲に溺死致し候由に御座

候、其他當地にて、蟹と兔との競走は常に蟹の勝  
 利に歸し居り候、牝牛は何處にても木の枝に上り  
 て眠り居り候、蠅は非常に大きなものにて大方山  
 羊程の大きさもあるべく候早々

考へ物

- 盲人にでも見えるものは何?
- 自分の物であつて、自分の手に入る前に、先ず  
人に取られるものは何?
- 鳥が十羽木に止つて居たのを鐵砲で三羽射落し  
たら、後に三羽残つたといふ譯は?



婦人と子とも



英國倫敦のフレールベル會四月二十一日日本會總會に於ける演説

黒田定治

今日はフレールベルの紀念日であるから、何ぞフレールベルの紀念に就てお話をしようと思ひましたけれども、餘り好い考へも出ませぬから、英國の倫敦にある本會と同じ名のフレールベルンサイターの話をし、我がフレールベル會と比較して見たいと思ふ、英國で幼稚園が這入つて來たのは何時かと云ひますと千八百五十四年である、丁度それはフレートベルが死んだ後二年経つて、諸君の御承知の彼の有名なる

マーレンホルツ男爵夫人が英國に行つて、ハンブステットと云ふ所で、第一の幼稚園を起し、それから夫人は倫敦に行つて倫敦の市内に五六ヶ所の幼稚園を起しました、これと同時にマンチ、ホスタ、其他イングランドの重なる都市に起り、又ダブリンにも起りました、これは皆男爵夫人マーレンホルツの盡力に依るのであります、かやうに英國で此夫人が幼稚園を起したのみならず、倫敦に滞在中所々で幼稚園に關する演説をせられて、倫敦市を始め他の都府に於て紳士淑女の賛成を得ました、さうして此夫人が千八百五十五年にインフアント、ガーデンと云ふ書物を書いて英國の各所に配布して幼稚園の擴張を務めました、此冊誌は數万出た、こゝで一寸お話を置いて置くことはマーレンホルツ男爵夫人はインフエントガーデンと云ふ名を附けたけれども英國ではさう使つて居らぬ、英國では他國の名稱を、附けることなどはあまり好まぬ方なれどもそれに拘はらず幼稚園は初めからキンダーガーデンと云つて居る、英國に取つては趣味のあることで、幼稚園事業の英國に這入つてからドレ程興味を有つたかと云ふ事がこれであるので、今ではギンダー、ガーデンと云ふ語は外國から來たのであれども全く英語になつて居る、さうして英國固有のインフアントガーデンと云ふ語は使つて居らぬ、で此夫人が其冊子を出すと同時に英國の諸方面でも幼稚園に興味を有つて種々の事を書いた、其中でも彼の小説家でジッケンスは最も早く幼稚園に興味を有つてジッケンスの著書中ハウスホルドワークと云ふ書物がある、其中に數ヶ條幼稚園の事を擧げて其必要を説いた位になつて居る、それからマーレンホルツ夫人が來られた後千八百六十一年

にミス、ヒールワルトと云ふ人とマダム、デ、ボルチガルと云ふ二人が英國に來られて、マンチエスタで幾つかの幼稚園を開いて居つた、其後ヒールワルトはダブリンに行つて幼稚園の事業に従事して又其後にダブリンを去つてストックウエルに行つて勤めて居つた、又千八百六十六年にミス、ドレックと云ふ人此人がゼネバから倫敦に渡つて幼稚園を設けて一生涯其の事業に従事した、此ドレックと云ふ人は即ちフレール、ンサイターの第一の會長であつた、尤も此會はミスドレックが英國に來らるゝ前に出來て居つたもので、千八百七十一年に倫敦に成立つて居つた、それは千八百七十一年に第一回の保姆試験を行つた時、試験官として前のマダムテボルチガルが試験を行ふた、其時から此會が成立したさういふ風にして居る中千八百七十七年に此フレール會の會長のミス、ドレックが死なれて、其後を繼いだのはシンプと云ふ婦人で、此シンプの事に就ては多分御存じと思ふ、此婦人は大變博學であつて幼稚園の事業の爲めには多くの書物を著して居りますから必ず諸君の目に觸れて居ると思ふ、抑此フレールンサイターの目的は如何と云ふに保育の改良上進を計るにあつた、さうしてフレールのシステムの智識と實際の事を研究して保育事業を擴張して保姆の事業を助けやうとした、此目的を達するが爲め種々の事業に着手した、其重なるものは諸方で講義を開き、其他保育に關する討論會を開いたり、或は本會で催す様な毎月の集會と云ふものもやつた、それから出版翻譯に従事して居る、保育に關係した書物又外國から出る書物で有益と思ふものは翻譯して會員並に其他に向つて配布して居ります、モウ一は保



母の試験をしてそれに免許状を附與して居ります、且つ此會で以て英國にある幼稚園を監督する、即ち會の中の重なる役員が幼稚園を監督視察して居る、此會は又保母の登録を爲す、保母の登録と云ふは日本には行はれて居らぬが保母になつて登録されるは廣く國內の幼稚園の保母になることが出来る、登録の事を此會で掌つて居ります、それから直接幼稚園に關係のない將來幼稚園の保母にならうと云ふ志望は有つて居らぬ、一般の母或は小學校の教師の爲めに保育學の講習會を開くと云ふことを盛んに實行して居ります、此フレールンツサイターの試験を経て保母の認定を得るものは千八百七十七年には僅か七十八人しかなかつたが近年に至つては年々此會の免許状を得る者が四百人内外の多數に至つて居る、かく人數が殖へたと云ふことは即ち此會が世の中に信用あると同時に保育の事業と云ふものは英國内に段々と普及しつゝあると云ふ證據であると云ふことが出来る、實際此英國では私立の幼稚園ばかりでなく、公立の小學校にもインフハントデパートメントと云ふものがある、即ち幼稚園と云ふものが小學校の一部になつて居る、倫敦其他重なる都府には小學校に此幼稚園と云ふものがある、さういふ譯であるから中々多くの保母が要る様になつて居る、そこで英國の政府ではフレールンツサイターの成績を認め此會から出た免許状は公に對して効力を有つと云ふを千八百九十二年に許した、政府の公認があると共に此會は益々隆盛になつて來て、年々試験を受ける者が多くなつて來て居る、まづこれがフレールンツサイターの狀況であります、其處で先きに申上げました此會の會長シレフが英國の各所々に散在

して居る幼稚園に關する會を結合して聯合試験團體の組織を企てた、併し只僅にベツトフオールドにある團體が之に加入したのみであり、シレフの企てた通りに連合團體が出来れば英國の保育事業の上に一層の効果を奏すること、思はるゝ、今日でもフレールンツサイターではドウか聯合しやうと務めて居る。

此フレールンツサイターと並び稱せられて居るものが他にモウ一つ、マンチエスターにあり、それはキンデルガルテンアソシエーションと云つて幼稚園會と云ふ、其會では主として學校を立て、保姆の養成に従事して居る、マンチエスターの此會はフレールンツサイターと共に英國にあつて保育事業には大功を奏して居る、所在地より見るときは、東京の本會は倫敦にあるフレールンツサイターに似て居り、それから京阪地方にある會はマンチエスターのキンデルガルテンアソシエーションと似て居る、マンチエスターにあるものと京阪にあるものと比較するに及ばぬが倫敦にあるフレールンツサイターと東京にある本會と比較すれば何の位差があるかは私が申さぬでも判ると思ふ、本會で行つて居ることは毎月雜誌を出し隔月に會を開く、其他何等の事を本會が施設して居るか我輩不幸にして之を知らぬ、即ち倫敦にあるフレールンツサイターの如く雜誌以外に有益な幼稚園に關係した書物を出版した事は聞かぬ、又一般の爲めに講習會を開いたと云ふことも聞かぬ、又本會に於て他の幼稚園の視察をするとか監督するとか云ふ高い地位を保つて居ることも見受けぬ、會員のみの集會以外に講義なり演説なりを開いて一般人に

向つて保育事業を鼓吹したと云ふことも聞かぬ、恐らくは本會は斯かる事も行ひたいと云ふ考へはあらうが、經濟とか其他の事情で出来ぬのであらうと思ふけれども、吾々會員全体がフレールベルの主義を信じ、マーレンホルツ夫人の如き熱心を有して居れば今擧げた位な事は到底實行出来ないと斷言するとは出来ぬ、必ず成し得らるゝことであらうと思ふ、幸ひ今日はフレールベルの記念日でありますから、フレールベル及びフレールベルの學徒の熱心な事を追懷して、ドウか此會が奮つて英國のフレールベルンサイターのやつて居る様な事をやりたいものと希望して居ります、其處で英國のフレールベルンサイターで現に改良を施したいものであると熱心になつて居ることが二つある、其一是幼稚園以外の教育者即ち小學校教員とか中學校教員とかさういふ教育者が幼稚園の事業に向つて無頓着なりと云ふことを憂へて居る、モウ一は世の中の一般の父兄と云ふものが幼稚園の事業と云ふことを能く理解せず幼稚園に子供を遣つて置けば家に置くより何處か宜いと云ふ位な考へで、幼稚園でして居る恩物とか其他は子供の慰みの如くに了解して居ると云ふことを倫敦のフレールベルンサイターでは憂へて居る、種々の手段によつて此二の弊を救はふとして居る、其方法として小學校に幼稚園部があるが其以外に私立公立高等女學校に幼稚園を附設せよと云ふをを勸告して居る、此勸告に従つて英國のハイ、ガールズ、スクール、カンパニ一と云ふ會に屬する高等學校には二十一ヶ所幼稚園があるこれは後日高等女學校を卒業して母となり妻となる人に保育事業の心得を授けるのみならず女學校教師と保姆との連絡が附く、其他小學校教師の女

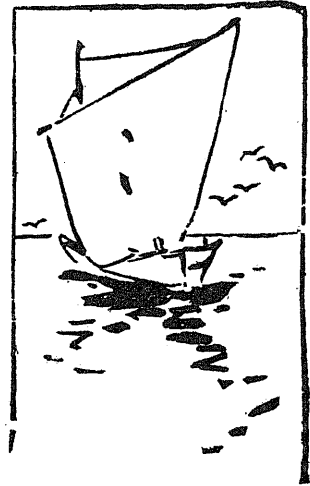
子の會と聯合會を開いて居る、或は月謝なしで保育學の講習を開いて小學校の教師の傍聴を勧めて居る、  
 其他一般の父兄が幼稚園の保育の事に暗いと云ふので父兄懇話會は勿論父兄の參觀を歓迎して居る、父  
 兄の參觀した時は務めて説明を爲し、重要な事を印刷したものを幼稚園に来て居る子供の家其他に配布  
 する、演說會を開いて一般の者に聞かせる、かゝる手段にて一方に於いては幼稚園以外の教育者との分  
 離を防ぎ、一方に於ては一般の父兄に保育と云ふことの考へを有たしめんことを務めて居る、此フレ  
 ベルンサイターの盡力に依つて年々幼稚園の數が殖へて、さうしてフレベルンの主義が理解され擴張  
 されつゝある、其處で此フレベルンサイターで改良したいと思ふて居る弊は即ち現時我國に於ける弊  
 ではなからうか、我國に於ても小學校の教員と保母とは何等の關係がなくて互に孤立の状態に居る、小  
 學校の教員は保母は教育者以外のやうに考へて居る様な感じがする、又保母たる人も小學校教員以外の  
 人の如く見られて居てそれで満足して居らるゝ様な感じがする保母と云ふものと保母の手を離れたる後  
 の教育を掌るべきものが、分離して居ると云ふ状態で以て子供の教育を全ふして行かぬものである  
 か、フレベルンの唱へる主義はこれで完成するものが出来るものであるか、保母は決して兩方分離の状態  
 に満足して居てはならぬ事である、保育事業に従事する保母の方から進んで此聯絡を計らねばならぬ、  
 それをするには個人々々で務むることも宜いであらうが、本會の如き團體が何等かの手段を執つて保母  
 と其他の教育者との調和をして子供の教育の統一を謀らねばならぬと思ふ、さういふ事が本會の重もな

仕事であるかと思ふ、又英國で憂へて居る所の一般の父母が保育事業に疎いと云ふことが矢張り我國の  
 通弊であると思ふ、一般の父兄が子供を幼稚園に送つてよこすことに就ては明瞭な目的を有つて居らぬ  
 と思ふ、唯々幼稚園に送つて置けば怪我もせず他の子供と比較すれば宜いと云ふ位なもので明瞭な目的  
 と云ふものを有つて居らぬと思ふ、此の附屬幼稚園の如きもさうでありはせぬか附屬幼稚園の如きは一  
 旦這入れば幼稚園から小學校、小學校から高等女學校と順序宜く行かるゝから、附屬幼稚園に入れて置  
 けば宜いと云ふ位で、實際の幼稚園の事を理解して子供をよこす人は少いのではないか、昨年高等教育  
 會議を開かれた時に或る議員が高等女學校に保育科を入れやうと云ふ提議をされたが採用されなかつた  
 と云ふことを聞きました、これは世人のなほ保育の本旨を了解するが少いからの結果でなからうか、  
 高等女學校に保育科を設け將來母となり妻となる人に保育の事業を教えて置くは重要な事である、それ  
 が採用されなかつたと云ふものは保育事業がまだ世間一般に重要視されないからであらうと思ふ、本會  
 に於ては注意して一般に保育に關する知識と云ふものを擴張すると同時に再びかゝる提議が出れば其議  
 の容れられんことに本會が盡力せねばならぬと思ふ、のみならず諸方の師範學校に附設せられ  
 て居つたものを經費とか何とか云ふが口實であらうが段々廢せらるゝと云ふ運命に接して來た、經費の  
 方から來るにしても世間の人が保育事業の重要を認めれば廢するまでに至らぬと思ふ、廢するに至る  
 と云ふことは一般の人が保育事業を知らぬ證據であらうと思ふ、かゝる弊を救ふて一般の者に保育に關

する知識を興へ且つ他の教育者との聯合を謀つて教育の統一を謀ることは吾々本會々員の將來に務めねばならぬことと思ふ、今日フレールベルの紀念日に於て英國のフレールベルンサイターの事業を思ひ出し本會に私の望むで居ることを申上げましたのであります。

あゝ教師、いかにばかり其心ざまのけ高かるべき者ぞ、  
げに、人を教育するには、其人先づ父たらざるべから  
ず。唯人たるのみにては足らざるなり。ざるにても、此  
業を傭人風情の者に打ち任せて顧ざることの悲し  
さかな

(ルツソー)



若葉もる夕月の影のをかしきに  
きて見よと人々のうながしけれ  
ば行きてしばし語りけるをり

平野 俊子

いつしかに青葉しけりて夕月の

ひまもる影も夏めきさにつり

花の香に霞みし春はさのふにて

若葉をてらす月のすゝしさ

いくさ人沙路にくかに仰くらん

利鎌に似たるゆふ月のかげ

### 首夏山

佐保山も龍田のやまも夏くれは

ひとつ緑のいろにいてつゝ

### 山家水

なとか世に急きいつらん隠れすむ

山ふところの谷のましみつ

### 鏡

星うつり物こそかはれますかゝみ

清き心はくもる世あらめや

新樹の蔭に佇みて

雨　峰　生

若葉銀杏のさまみれば  
ゆわみせしかと思ふまで  
濃き緑葉のしたゝりて  
色衣手を染めんとす

うれしきはこの木下かな  
苔の蒸したる碑は  
かつては世にも新墓の  
それと涙のそゝがれて

思出つらき目標と  
知られしあともかすかにて  
今は無縁の石文に

ふりむく人もたえはてぬ

たゞ年毎に一もとの  
銀杏ぞ春の初めより  
塚をば守る人のごと  
かへぬ姿を示しける

人移りゆき星變り  
昨日みし世は今日ならず  
仇なるえにし浮雲の  
世の真相をばさみゆきて

初夏のいまことさらに  
笑みを湛えて塚まもる  
新樹の銀杏いき〜と



情をこめて茂るかや

石文汝よねかはくは

雨風ふきて畿とせを

ねむりて狭く暮すとも

銀杏のふかき情には

千代萬世も變りなく

やすく此の世を送れがし

朽ちて竈の灰となり

煙りと消ゆる其迄に

友に答へて

君かつれなきことの葉を

さくたび毎に言葉なし

そは何故と云ひわかす  
狭き胸をば痛めつゝ

例へばうすき皮はぎて

造りいてたる鼓かな

強く撲なば破やせん

弱くは響わかざらむ

生れしえにしかへりみば

幸なきわれとなかんかな

頬に笑みをばつくれとも

衣うつくしくかざれとも

さかなき人のさけすみて

語るをさけばわか胸の

波しづかなるひまもなし  
世はかくありとしりつれど

あはれ光明の御國をば  
たいひとすじに望めかし  
心にかけてたのめかし  
荒む世のかぜあらくとも

### 兒童の個性

松本孝次郎

個性といふことは委しく云へば個人性といふことである。即ち人は各特性を有つて居て幾分か異つて居る處がありませうが、兒童もまた早くから已に各特別の性質を有つて居る。之を兒童の個性又は個人性といふのである。

心理學で人の心の話を聞いたり、教育學の方で教育の話を書くのは共通の場合に付いての話を聞くのであるから、是等の人か實際教育の任に當つて見ると、學理の通りに行かぬものであるといふことを知る。何故學理の通りに行かぬかといふに凡て兒童は各個性といふものを有て居るからである、故に教育者は個人性といふことに注意を怠つてはならぬ、そこで個性に付て如何なることを心得て居らねばならぬかといふに先づ個性は如何にして生ずるかといふことである。

家庭の異なるに従つて各異つて居る個性を生ずといふことは勿論であるが同じ家庭に居る兄弟でも同じ精神を有つことは出来ぬ。この原因の主なるものが三つある。

#### 一、身体的の要素

二、社會的の要素

三、遺傳的の要素

一、身体的の要素、身体の強弱健否といふことである。体の弱い者は神経系統も弱く從て精神が激昂する。或は兒童の食物や氣候等は身体に影響して、從て精神にも影響する。

二、社會的の要素、兒童の性質は其境遇の如何に由て變るものである。兒童が常に年長の人ばかりの中に生活して居ると早熟になる。ことに年長の人と共に居ることは兒童のため大に考ふべきことである。早熟は精神發達が身体發達到に伴はぬもので身体の割合に精神の發達し過ぎるのを云ふのである。元來兒童は模倣力の強いものであるから見聞することの眞似をする。ことに多人數集る處では其中の勢力家の眞似をする。是に由て精神に影響

響がある。其他雙方、教育の仕方等に由つて精神が異つて來るものである。

三、遺傳的の要素、子供には生來遺傳といふことがあつた。如何なることか遺傳するかといふに、それはよく分らぬ、即ち大切な性質が遺傳して居るかと思へば又些少のことが遺傳して居る。つまり素質又は稟賦といふものが遺傳するのである。親が癩癩持であると其子も癩癩持になるといふやうなことのあるのは癩癩其ものが遺傳するのではなくて癩癩の起り易い性質が遺傳するのである。それは丁度肺病其ものが遺傳するのでなく肺病にかゝり易い性質が遺傳するといふのと同じである。特に精神病に付しては遺傳といふことがよく分る而して女親が持つて居ることは女の子に、男親の持つて居るとは男の子に遺傳するものである。

個性は大凡以上の要素が色々に働いて出来るものである。之を一言でいへば智情意の交はつて居る分量が色々變つて居るから其ために人毎に心の有様か異つて居るのである。昔から人の心は其顔の異つて居る如くに異つて居るものであるといふて居りますが實に其の通りである。

斯く考へ來れば人の個性は種々様々であつて、從て之を研究することが困難であつて之を教育する規則などは分らぬ様であるが、しかし又人には共通の點が澤山あるから、個性といふものを研究することが出来る。

兒童が其智識を得るのに多く用ゐる感覺機關は各異つて居る。これを大別して見ると左の通りである。

一、皮膚覺的(觸覺的)典型

二、視覺的典型  
 三、聽覺的典型  
 四、筋覺的典型

一、皮膚覺的典型、これは凡て物の智識を得るに觸れて見て得るのである。故に普通の人よりも盲人に於て斯様の人が多し。觸覺では如何なる度まで人を發達させる事が出来るかといふに盲人にして高等教育を受けることか出来るのを以て見れば其の大に發達し得ることが分る。子供は生後五六ヶ月より二年前後に至るまでは自分の近傍にあるものを握らんとするものである。この間、子供は觸覺によつて多くの智識を得る。又子供が手に握つたものを口に持つて行くのは之を食せんとするのではなく、皮膚の中で尤も感覺の鋭い口唇にて感覺せんとするのである。しかし盲人でない子

供に於ては皮膚の感覺の効は著しくないのであることは確である。

二、視覺的的典型、目で見たことをよく記憶し、かつ思ひ出すものである。人に斯くの如き特性のあることは二十年前に英國のカルトンが始めて注意したのであるが、近來は教育上大に大切のこととして研究される様になつた。少し研究すれば子供がこの典型に屬するか否かを知ることか出來る、即ち斯かる傾向を有する子供は同じ物体の形容をするにも目で見たことをもつて話す。大人にも斯様な人は多くありますが、何れも此の類の人は話すことが巧である。俗に黄色い聲、とか赤き心とかいふ其形容詞は目で見た處のことをもつて聲或は心を形容して居るのである。

三聽覺的的典型、耳で聽たことをよく記憶する。

又考へるにも聽たことを直に考へ出すものである。音樂家には此性質が必要であるが、有名な音樂家といはれる人は皆此の典型に屬するもので、子供の時から聞き覚えの曲を直に歌つたり又彈したりするものがある。しかしこれは幼い子供には極めて少ない。けれどもこれは子供は性來此の典型にならぬのではない。此の典型に發達する様に教育することが欠けて居るからである。

子供が視覺的又聽覺的典型的何れに屬するかといふことを知るには、或る實物を見せて置いて、三十分後に其見たことに付て話させる。又或る話をして後にこれを話させる。そして二つの中何れをよく記憶して居るかを驗する。此の如き方法に由つて數回試みれば何れが得意であるといふことは分る。又少し發達した子供には或る問例へは

バイオリンは如何なるものであるかといふ様な問に對して答をさせて其答が形と聲の何れに屬するかを知れば何れの典型に屬するかは分る。

四、筋覺的典型、 筋肉の運動に訴へたことをよく記憶して居る。これは技藝に關するものをするのに必要である。或る人は筋覺に長して居る人である。故に此人は常に兵士が道を通るのを見れば彼等は如何に筋肉をはたらかせて居るかを思ひ出さずに居られぬといふて居る。俗にいふ器用の人といふのは皆この筋肉の運動に、よつて得たことをよく記憶して居る。又字の讀める兒童に讀書させる時或る兒は字を見て居て默讀する、又或る兒は舌、唇を動かして音讀する。其筋肉を動かして讀む方の人は筋覺運動に長して居る人である以上述べ來つた如く子供が何れの感覺機關を尤

もよくはたらかすかといふことを知るに由つて其簡性を知ることが出来る、今茲に一本の直線を引きまして三分乃至五分間これを見せ置いて然る后これを消して再び前と同様のものとそれよりは長いもの短いものの三様の直線を引きて、三つの中何れが前に見たものと同じであるかを答へさせる。そうすると視覺に長した子供は正しい答をする。又子供に目を閉ちさせて手を机のふちに於て、三寸程動かして十五分又は三十分後に再び目を閉ちさせて前と同じ寸動かして其動いた長さとの前の三寸とを比較して見る、其差が少なければ少ない程筋覺に長して居ることか分る。今日では年令に由つて子供の典型が異るといふことを云ふ。しかしこれは未だ十分に分らぬことである。

運動的兒童、感動的兒童

子供には運動的、感動的の二種がある。如何なる理に由つて斯くの如き區別が起るかは別問題として實際子供を見て居るとこの二種のあることはよく分る。即ち運動的兒童は刺激を受けると直に運動する傾を有するものである。此種に屬するものは智識を求むる目的が何かこれを運動に表はしたといふのである。又今一の感動的兒童は自分で余り運動せずして考へて居る。又子供はよく泣くものであるが同じ泣いても運動的の兒は直に何かに氣を轉させることが出来る。けれども感動的の兒はなかく泣きやまぬ。凡て運動的の子供は心の様子を全く外部に呈はすものであるが感動的の子供はこれと反對で只心の中で考へて居るから教育者の方で推察しなければならぬ。

家庭の内に音楽がなければ陰氣である。家庭には必ず樂器を備へねばならぬ、樂器がなければ歌うても宜しい。細君が歌ひ、子供が歌ひ、主人も歌ふと云ふことになる、家庭の趣味は益々増して来る、從つて子供の氣韻を高め、理想を高くすることが出来る。(宮川經輝氏談)

東君著「幼稚園保育法」

を讀む

市川源三

畏友東君、頃者「幼稚園保育法」てふ一書を公にせられ、一本を手に寄せられたり。予や、幼稚園に關して、殆ど、何等の知識を有せざるもの、本書によりて得るところ、甚だ多し。されど、人各々心あり、又議すべく望むべきこと無しといふべからず。よりにて爰に聊か妄言を陳して、かつは、己れの疑を説き、かつは君の好意を空しうせざらん」とす。

二

凡そ、教育事業は、その種類の如何なるものたるかを論ぜず、何れも皆必要缺くべからざるものなり。然るに、世人や、もすれば、家庭教育と学校教育、小學教育と中學教育、男性教育と女性教育との間に、價値の高下を定めんと欲するものあり。予私に以て大早計の甚だしきものとなす。思ふに、教育事業たるや、その關係する所極めて多角多様にして尋常一様の事業と比すべくもならず。然のみならず、その事業の當躰(目的物)とするところの人の精神は、これ亦極めて靈妙複雑の作用を有し、その健否を知り生長發達を測ることの難さ、到底家畜の良否花卉の發育を知るが如きの類にあらざるなり。この故に、某が目して悪教育となすものも他は見て以て可となすこと亦無さ

にわらず。要するに吾人今日の知識の程度を以てしては、かくも複雑困難なる教育事業の良否高下急不急を論ずること能はずと云ふべきなり。世人或は國家が學校教育に力を盡すを見て、學校教育を重要視するものあり、誤れるの甚だしきものなり。國家が學校教育に力を用ゐる所以は、國家の力、學校教育以外に及ぶ能はず、又、及ぶを不可とし不利とする所以に外ならざるのみ。決してこれを以て重要視したるが故と考ふべからず。尙、他の例を以てこれを説かんに、國家は善行者を賞する爲に、僅々一二圓を費すのみなれど、惡行者を捕へこれを罰するまでには、前者に比して數十百倍の多額の金圓を費せり。されど、人もしこれを以て、是れ國家が善行を獎勵するに吝なる所以なりと論せば、三尺の童子も、尙、これを笑ふべ



し。教育のことも、亦、かくの如し。國家が力を用ゐると用ゐざるとは、決して教育事業そのもの高下に關係せざるなり。

三

教育事業は、その種類によりて價値を異にするものにあらざるを前述の如くなれども、教育の方法に至りてはや、趣きを異にするものあり。思ふに、教育事業そのものと教育の方法とは似て非なるものにして、二者決して混同すべきものにわらず、然して教育の方法は被教育者が心身の發達の程度如何によりて必要不必要の差を生ずるものなれば、教育はその方法上より觀察して、種類によりて價値の高下を生ずるなり。世人が幼年教育は重要なり、少年教育は重要なりと云ふは、全くこの義に外ならざるなり。然らば教育の方法中最も研

究を要すべきは、如何なる種類の教育なるかといふに、問はずして幼児の教育たることを知るべし。幼時の教育とは何か。小學校教育か、幼稚園教育か、所謂家庭教育か。これが答は幼弱なる兒童を取扱ふ教育はその方法の價値大にしてこれが研究も亦急なり肝要なりとの一言にて事足るべし。事理は正にかくの如し。然るに、これを今日の實際に徴するに、吾人は忽ち異様の感に打たれざるを得ず。何ぞや、學校教育のみ獨り重きを置かるゝこと、その一なり。小學校教育の方法のみ獨り討究せられ研鑽せらるゝことその二なり。あゝこれそも何の故ぞや。吾人思へらく教育界に於てかゝる事態を呈するは、これ尙衣を着けて裳を脱するが如し、不當不理の甚だしきものなり。よろしく學校教育以上の價値を幼児教育即ち家庭教育に

附與せざるべからず。小學校教育法を研究するよりも、尙、多く時間と精力とを幼児教育法に傾注せざるべからず。幼児教育法の研究は、決して閑人の閑問題にわらず、所謂教育家の片手間に論ずべきものにあらざるなりと。

幼児教育法中、やゝ秩序ある研究の成りしは、思ふに、幼稚園保育法なるべし。されど、フロエベル去りて茲に五十有餘年、その研究何ほどの進歩をかなしける。吾人は怖る、幼稚園の價値は屢々疑はれ、その廢園の悲命に遭遇したるもの又二三これ無きにあらざりしことを。嗟これ幼稚園そのものの罪ならんや。幼稚園保育法の改良を怠りし人の罪なり。我が友東君は我が國に於ける幼稚園の唯一の研究者なり。少くとも日本の幼稚園事業は君の靈腕に俟つこと多大なり。然して實に君は

着々としてこれが研究に従事せられ、屢々其の結果を本誌上に掲載せられたることは、吾人の親しく知悉するところ、今や又幼稚園保育法てふ一書を著されぬ。まことに、その職につとめたりといふべし。

四

本書は、その名目より判ずるも、著者の現職より考ふるも、全く幼稚園保育法の書たること論無きなり。されど、幼稚園保育法は獨りこれを幼稚園にのみ適用すべしとなすは甚だ不可なり。もとより、全体と云はねど、その多くは採つて以て家庭の保育法となすべきなり。又、なさいるべからざるなり。この意味に於て、予は、本書を以て家庭教育の好參考書となし世の母たり父たる人に推奨せんと欲すると同時に著者が今一際この邊に心を

用ゐられ、尙一層適切なる家庭の讀物たらしめたるらんにはと、薄か遺憾に堪へざるなり。著者も亦序文に於て「……故に著者は學校の教師及世の母たる人に向つても普く本書の一讀を冀ふものなり」と陳べられたり。著者の希望や甚だよし、然れども著者はこの希望に添ふの用意ありしや否や疑ひ無き能はず、何となれば専門家に示すところを直に非専門家に示さんとせられたること歴々として蔽ふべからざるものあればなり。

その文体の平易流暢にして讀み去り讀み來つて何等の苦澁を感じざるは、よく本書の性質と合するものと云ふべく、又、その組織に附ては、まづ教育に關する概論を試み、家庭教育に及び、遂に保育法の本論に移り、終りにフロエベルの略傳學說に入り、最後に附するに幼稚園の設備を以てした

るなど、用意の周到なる、概ね推して知るべきなり。たい、蜀望せば、前にも陳述せしが如く家庭教育の章と保育法の本論との間に更に一層親密なる連絡あらしめば、益々妙なりしならんと感ぜらるゝのみ。

五

予は論評の簡潔ならんことを望むが故に、直に本論に入ることゝすべし。著者は、まづ、幼稚園の必要と題して左の三個の點より幼稚園保育の必要を論述せられぬ。

- 一、父母生計に追はれて兒童を保育すること能はざることあり。
- 二、父母、教養の學理と方術とに暗くして保育せんと欲して能はざることあり。
- 三、家庭教育(個人教育)と學校教育(衆人教育)

との間には連絡無し。然して、幼稚園はその中間に立つものとも云ふべければ、よく兩者の連絡をなすべし。

以上の論旨は、一見甚だ明確にして何等疑を容るゝ餘地なきに似たりと雖、審にこれを考ふるときは、未だ邊に首肯すべからざるところあり。右の第一點に就ては恐らくは何人も異議を挾むことなからん。然れども、第二點に就ては果して保母は實母より多く保育に適したるものなりや、少くとも現今の所謂保母なるもの、中に幾人か世の父母よりもより多く保育の法に長けたりとなすべきものありや。これ、最も疑はしきことなり。更に第三點に就て云はんに、學校教育と家庭教育との間に連絡の乏しきことは吾人も亦これを認む。されど、果してこれに連絡を附せんために、幼稚園を

設けざるべからざるほどの懸隔を生じ居るや、學校教育をして尙一層家庭教育に接近せしむることは不可能のことなりや、家庭教育をして尙一層學校教育に接近せしむる方案無しや。凡そ、これらの問題に答ふるところなくして、漫然連絡の必要あり、従つて幼稚園の設立の必要ありと論ずるはその説を盡したるものと云ふを得べきか、吾人聊か疑無きを得ざるなり。

著者が幼稚園の缺點として述ぶるところもや、不十分ならずやの感あり、著者は幼稚園の弊害として

一、兒童の個性を害す

二、病毒の傳染惡風の傳播の恐れあり。

右の二者を擧げられたり。もとより、この二三に止まれりとせられたるにはあらずるべけれど、そ

の口吻より察すれば、これを以て重大なりとせらるゝや明かなり。されど、これ果して幼稚園の弊害の重大なるものなりや、心力過勞の弊、精神早熟の弊等は幼稚園の弊害として數ふるに足らざるものなりや。少くとも、現今の幼稚園はこれらの弊害に陥れるところ無きか。これ、予が經驗に豊富なる著者に問はんと欲するところなり。尤も、著者は幼稚園保育の要旨と云へる章に於て、從來の幼稚園の知識主義に傾きたるを難せり。その言や甚だよし。されど、かゝる弊は果して從來の幼稚園に於てのみ見るべくして、今日の幼稚園に於ては見るべからざるか、更に一步進めて幼稚園と云ふが如き衆人教育所は、常にかゝる弊害に陥ること、尙兒童の個性を害ふこと必然の結果なるが如くにはあらざるか。これ、又、予の切に問はん

と欲するところなり。

六

次に、保育事項中の一つなる談話に就て一言せん。著者は、まづ談話の效用を述べ、尋いで談話の種類を分ちて(一)寓話(二)童話(三)神話及英雄談(四)事實談及寓發事項の談話の四つとせられたり。されど、予の考ふるところによれば、更に對話の一項を加へてはいかゞと思はるゝなり。談話は諸般の人事上の關係を知らしむるものなりとは著者も明言せるところ(八十二頁を見よ)なり。されど一步進みて人事上の關係を實習せしむるは尙一層可なりとせざるか。而してこれが爲には對話の一項を加ふること最も必要なりとせざるか。かつや、對話は遊戯と談話とを結合することを得るものにして、これによりて保育事項の間に統一なき弊に陥るこ

とを除去し得べしと信ず。いかん。

次に、恩物に就て一言せん。予嘗て始めてフロエベルが恩物に關する意義を聞かば、その説の漢唐の儒者の陰陽五行の説めきたるに驚き、思へらく、かゝる忠説を基礎として作られたるものと久しくその聲價を保ちしとの不思議さよ。されど、教育學の研究盛なる今日遠からずしてその價値を疑はるゝに至らんと。今や、本書を繙くに及びて、當時の疑念再び心中に來往するを禁ずるを得ず。そもそも、これ、説の非にして恩物その者の教育的價値を有するに由れるか。はた、又、師説を墨守し舊慣に泥みてこれを改革せんとする人の出でざるに由れるか。予はもとよりその前説の如くならんことを欲すれども、事實は寧ろ後説の如くなるに似たり。いかん。勿論總ての恩物は、氏が一時

の創意に成れるものにあらざるや明かなり。されど、後年作成する所のものも、皆氏と同一の精神を基として案出したるものなれば、又均しくその價値を疑ふべきものなり。予の恩物に對つて價値疑ふべしとするは、凡そ左の三條による。

- 一、抽象的なること。従つて興味に乏しきこと。
- 二、小細工に過ぐること。従つて筋肉の練習には或は有功ならんも、満身の勇氣を鼓して事業に當る良習慣を興ふることを得ざることを。
- 三、その多くは机上の手に屬すること。従つて手技の種類しゆぎのしゆるるの少きに失すること。

二と三とは説明するに及ばず、只第一項のみ少しく説明せんとす。昔者習畫帖せきしよしやうわらきやうに流行したる順序あり、まづ點、線等の畫方を學び、次に三角形、四角形、五角形、圓形等に及び、それより簡單なる

事物の正面圖次に側面圖と次第にその複雑の度を加ふる様仕組みたるものなり。編者は以て單より繁に進じてふ教育上の原則に合せりとなせり。然るに、現今この順序全然不可なりとして曰く、これ具躰より抽象に進じてふ教育上の原則に戻るものなり。これ趣味無く兒童に有害のものなり。この議論は移して以てフロエベル氏の恩物の批評とすべし。思ふに、フロエベル氏の如きも所謂簡より繁に進み、單一より複雑に進じてふ原則を知りて具躰より抽象に進じてふ更に大なる原則の存在することを忘れたるものなり。最後に、保育上一般の注意として陳べられたる中に、遊園を多く利用すべきこと、幼兒の個性を發達せしむべきことの二項は最も時弊に適中したるものなりと信ず。遊園を利用すべしと説くこと、

フロエベル既にこれを説けり、されど之れ説き易くして行はれ難きことと見え、今、尙、かゝる注意を興ふるの必要極めて切なるを思ふなり。而して予は遊園を利用することの乏しき一個の理由は、恩物の机上の業にのみ屬する弊にあらざるやと推察せざるを得ざるなり。遊園に因みて幼稚園に於て家禽家畜を飼ひ、有益無害の動物を養ふことを望む、草木花卉は兒童の自然の友なり。されど鳥獸虫魚は更によりよき自然の友なり。西洋各國の讀本を繙けば、幼兒の家畜家禽と戯れ、虫魚と遊ぶ様各頁に畫かれたり。然るに本邦は動物の種類に富める國と稱せられながら、幼兒は依然として室内に太鼓人形喇叭さては犬張子を友として遊び居れり。幼兒保育の任に當るもの、思はざるべけんや。個性を發達せしめよと説くこと、すべての教

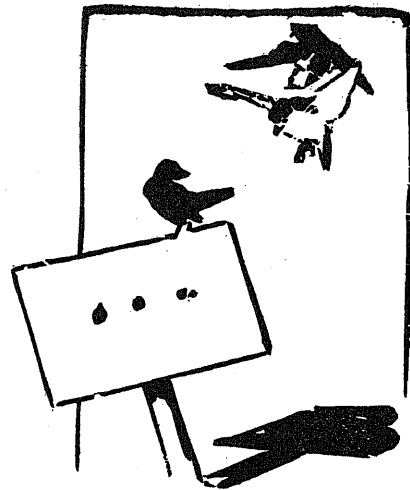
育學者皆同一なり。されど、これが實際の應用に至りては頗る難事に屬す。著者も亦、個性を發達すべしと説きてその方法に及ばざるは遺憾なりといふべし。この點につきて予別に説あり。今、これに云ふべきにあらねば、後日稿を改めてこれを論ぜん。

以上は、一讀その所感を記したるもの、その精細なる評論に至りては自らその人あらん。予や門外漢、その云ふ所悉く肯綮に中らざるを恐る。

妄評多謝。

A good example is the best sermon

よき實例は最良の訓べなり。



ワーカーといふ學者の  
曰ふに

八歳より下の子供に、自發的の運動を抑制すると精神の活動も亦之に伴つて抑制せられるものだ。子供を訓育して行くには、耳から與へる所の所謂命令的訓育はなるべく少くして、子供の眼に訴へて訓育するのがよ。



### 子供の死亡の割合

ある佛國の學者の説によれば、子供の死亡の割合は、生れて一年の間には、出生せる子供の數の四分の一、一歳から六歳までの間には百人に付き十五、又は十六人、六歳から十四歳までの間では、百人につき二人又は三人に當るといふ事

### 割 十二月月 (ざつつき)

石井泰次郎

五月の料理には、古き月次記事に上加茂の競馬、甲冑を著し馬に騎りて供奉せる藤の森の神幸、難波合戦の勇將木村長門守忌、なほ古くの坂上田村丸忌、齋藤別當實盛忌、鎮守府將軍北畠顯家卿忌、今川義元忌、源三位入道賴政忌、などこの月の行事なり、補正成ぬしのもこの月に行ふべき行

事とはなりたりしなり、端午の節は、端午の節にはおらずといへり、なれどもたけき兵者のよきなをとどめたる忌月なれば、端午の意をとりて、午によせたる食品をこゝに料理ことゝなしつ

#### 午莠料理のくさく

午莠の料理法は、湯煮にする、酢にする、たゝく、あぶる、みそ煮、萬醬油、あへもの、けんちん、さゝがし寄、甘煮、紅葛溜、大錢煮、紫蘇卷、海苔卷などいろゝゝある

#### 太羹の拵方

午莠の太き品よきを、水にて洗ひて土つきたる皮を庖工刀のむねにてこきとり、五六分位のあつさに、輪切にして、水に浸し、鍋に湯を煮たゝせたるなかに入れて、二十分間湯煮すべし、湯煮する時米のとき汁あらばそれにて湯煮してよし、さて

煮わがりたるを、竹の細申にてさしてゝろみて、

柔らかなりたれば、湯より取上て、鍋に砂糖と

醬油と水とを、左の割合にして煮染むる

砂糖二十匁、醬油三勺、水五勺、午莠十

五切ほど

火はつよすぎぬほどがよし、ゆるくと煮染るを

よしとす、火つよければ、煮わがりぬまへにこげ

つきてあし、注意すべし。

たゝき午莠の拵方

午莠を、水にて洗ひて二寸位に切て、皮をむき、

中の心の所をくりだして（つば錐などにてくり

ぬくなり）湯煮したる後に、棒をもつて板の上に

て叩きひしぎて切形して、山椒醬油にひたして食

すべし、山椒醬油とは、山椒の木の實を洗ひて庖

丁にてきざみても、又干山椒の實の皮を、いりて

粉にくづしても、醬油に合するをいふなり。

湯午莠の拵方

午莠を洗ひて、木口切にして、湯煮をよくして柔

らかなし、皿に盛て、生醬油をかけて、胡椒の

粉をふりて食すべし

酢午莠の拵方

酢のよろしきを用ひて、右の湯煮したるを、取わ

げて、能々湯を切りて、酢に浸しふきて、味のつ

きたるを食すべし

あぶり午莠の拵方

午莠を洗ひて皮をむきざり、二つにわりて心を出

し、火上にあみをかけて、醬油にひたしてやくべ

し、又は山椒みそを焼たる上にぬるもよし、これ

はわたらしき午莠にかざるべし。

味噌あへ午莠の拵方

まへの湯午莠のこしらへかたにしたるを、胡麻みそ、又山椒みそなどにてあへるなり、切方は薄くして、長くも輪切にもすべし、

甘煮午莠の 拵方

午莠の太きものを、洗ひて、上皮を庖丁刀にてこそげかとして、飯のとり湯を水と合せたるにて、能々湯煮して、箸のわけなく通るほどにして、箆にあげて、上より清き川水をかけ、水氣をとりてのち、鍋に味りん酒四合と醬油六合の割合にて、午莠を入れて、つよき火にてこげつかぬ様に注意して煮るべし、煮あがりたるを、小口より五六分に切て、器にもりて出すべし、上に青のりを焼ておぼくかけて出すべし。

○又初より五六分の木口切にして、湯煮して、

煮たるもよし

○又右の如く煮て、器に盛りて、上より胡椒粉をふり、其上へ積薯を湯煮して、馬尾篩にて漉したる、粉をかけて出すもよし。

紫蘇卷午莠の 拵方

午莠の若き物を、洗ひて、皮を庖丁刀にてこそげとりて、二寸余に切て、湯煮をして、味淋酒にて能く煮、醬油少量さして、蕃椒少しをつゝ切にして中の種を除きて入れ、一煮したるを板の上に取上て汁氣をのけて、梅醋漬の紫蘇の葉一枚づゝのばして、午莠をさりとと巻て、一種の酒菜または他のあしらひにしてもよし。

（みなつきの料理はつぎにしました）

家庭に於ける所感

長野縣 飯塚忠次郎

簾から棒を出した様に、突然僕がこゝに筆を起す  
 のも外の事では御座いませぬ、平素自分はこう云  
 ふ考へを胸にえがいてゐたのである、いつか折が  
 あつたならば思ふてゐる事柄や感じたことを新聞  
 や雑誌に寄稿したいと考へてゐたのであるが、今  
 幸ひ餘閑を得たから、幾多の愛讀者と會員をもつ  
 貴誌の貴重な餘白を拜借したると云ふ僕の希望で  
 あります、軍國多事なる今日、かゝることをかき  
 たてるのは、おこがましいお話かもしれませぬし  
 又、僕の様な経験のあさい者が貴誌をけがすとい  
 ふことば、あるひは失禮にあたるかもしれませぬ  
 が、然し一寸の虫にも五分の生靈とか云ふ俗世話  
 の通りで幾分かの主義とか自信とか云ふものもあ  
 る、記者閣下のまへ耻しい話だか、勿論識者に反  
 省を促がすといふ程の意氣込みもないが、聊か爾來

家庭に於て實驗したとや感じたとをかきたてたい  
 考へである、幸に我が意のある所をお汲みくだす  
 つて掲載の榮をたまはらば無上の喜びに存じます  
 (一) 現今の家庭  
 近年になりまして世の人々が一般に家庭と云ふ事  
 について、たいぶ目を注がれる様になつて來たの  
 は何より國家のために大に慶すべきこと、存じま  
 す、學海の波は日を逐ふてたかまりゆき、實に學  
 校其ものには乏くありません、そのみでなく家  
 庭に關する書籍や貴誌の如き雜誌は月に日に増刊  
 せられて、それら多くのものが各々もてるとくし  
 よくをはつきして教の庭に活動するなど、何と愉  
 快では御座いませぬか、此の如く世が彌々進歩す  
 るに従つて、家庭もおひ／＼改善されるわけです  
 が、現今我が國の家庭の有様が果して如何な方向

にすゝみつゝあるで御座いますしようか。

國を文明に暗黒にみちびくのも家庭の善惡に大に關すること御座いますから、貴賤貧富の區別なく我國一般の人々が之が開拓に鋼や鋸を執るべきは當然な事と思ひます、近頃家庭といふことにつさましては色々のお方がものされたものもあり、また二三の人々が家庭改良とか家庭教育だとかと云ふ方面に於いてしきりと指を染めはぢめた様なものに、それはさわめて狭い狭い範圍に於てせられて居るので御座いますして、全社會は猶依然として舊態をあらためないのであります、現在の家庭ではどうしても満足はできないのですから殊に婦女諸君方は一歩足をふすゝめになつて、家庭改善の唱道者となり暗憺たる家庭の上に一旗をたかくかゝげて、彌此主義を鼓吹してゐただきたいの

であります。

世を愉快に渡ろうと思ふたならば、殊に家庭を以て一つの樂園とするの必要があると考へます、家庭を樂園とするのには個人的な行爲をして居ては、とても望をぞくする事はできません、即ち家庭を一つの樂園にするのには一族がこぞつて力を竭し、お互に心を戮し、集りては樂をともし、散じては職を分擔して、有益なる勉強と愉快なる遊戯とに樂しく歲月を送つたならば、自然と家庭も健全に高尚になることは明瞭で御座います、現時此様な趣味ある希望ある(圓滿なる家庭)家庭がどれほど御座いませうか、筆にするさへ心ぐるしいほどで、實に少くないので御座います、圓滿なる家庭が何故にすくないでせう、之はなにか一の原因がなくてはなりません、其は家人が個人的であ

るからです、自利的であるからです、一日も早く  
 此く弊習を腦裏より消去して健全なる家庭を創起  
 するの念を育成する必要があらうかと思ひます、  
 大きく云へば國家の進歩に關係するわけで研究す  
 るの價値ある一の大問題で御座います、圓滿と不  
 和の二岐になるのは個人的なると家族的なるとに  
 依ります。(未完)

よま

於東京小石川 ひらいは としただ

○感心なこ供、私が四月上旬迄おりました灘魚崎  
 といふところに、四才許の女の子がありました。  
 あるとき下女につれられて遊びにでました其の時  
 は雨の降たあげくであつたから、みちがぬかつて  
 所々に水がたまつておりました、ぼろ／＼あそび

まはつてゐるうちに下女の不注意から、しまい  
 その水たまりの中におちこんでしまつて、あたま  
 から足の先までどろだらけになつたけれども、そ  
 の子はへーきですぐ立つてかんがへておりました。  
 下女はとんだそ／＼をしたらと思つてあつげにと  
 られて、その子をだます考へもなかつた、しばらく  
 してその子は下女にむかひて、こんなになつて  
 うちにかへるとお母さんにねーやがきつとひどい  
 めにあうから、今日はお母さんにわたいがひとり  
 で水たまりの中におちたんだといふから、ねーや  
 はだまつていよといひました。こ供ながらかよー  
 に自分の母が下女にたいしてきびしいのを知て居  
 て他を思ひやるといふとは、この幼き子供心にも  
 わさまへてゐるのであります、ましておとなにお  
 いておやであります故に家庭に於てはもちろん、

吾々教育者はその心持でうまくそれらの志想を利  
用して凡ての點に感化訓練して行かねばなりませ  
ん。

お母さんちゝがのみたいともいはん幼子の口より  
わたいがひとりでおちたといふから、ねーやはだ  
まつていよ、といひたる言葉こそ味ふべきこと  
はありませんか。

○母の訓練　しばらく前のことですが、私の知人  
に一人の子供がうまれました、その父はうまれな  
い二三ヶ月前に某官廳の官職に任命せられて赴  
任しましたから、うまれた子はどんな子である  
か、すこしもしらないでいたこと五年である。そ  
の間母親の手一つでいろ／＼のくげんをして朝夕  
愛敬をつくし又その子の大きくなるのを見て己の  
心をなぐさめなどしてくらしておりました、又そ

の子に父のことをしらせんため毎朝夕父のしやし  
んを見せていろ／＼はなしてきかせておりました  
父は五年めで始めていへにかへりて、まちにまつた  
るわが愛子をみるこゝろができたのである、父は久  
ぶりであがやのかどにたち、いま歸つたとこゑを  
かけた、そゝすると五才になるわが子がでゝきた  
のである、父はわが子なるかいなやをしらなかつ  
た、しかるにその子は、とつぜんお父さんおかへ  
りとうれしなみだをうかべてさげんだのである、  
父はあまりのことゝてかへすことばもなく、立つ  
ておると、母はよゝかかへりと兩手をついてうれ  
しなみだにしすんだ、かくて親子三人は五年ぶり  
の物がたりゆめかうつゝかと思はるゝほどであつ  
た、じつにこのこの母は己のみを以て暖か柔きお  
んわいをつたへ、父のしやしんを以てげんわいな

る諸徳を養ひ、以て自分のつとめを全ふしおつとにたいしては留守中の任務を遂行したのである。

かくの如きは良妻賢母といふてもはづかしくあるまい、かくの如き心がけは一般世のお母さんたちに望みたいことであります、しておつとが多年遠く外國にあるとか、又はいろ／＼の事情のために家にあることのできない家庭においてはなをさら一そーその心がけが大切であるとおもいます。

### 偉人の學校時代 (三)

グレンサム及びケムブリッヂに於ける

ニユートン (承前) 米 漢

ニユートン又、鉛筆畫の妙手となりぬ。蓋し皆木炭を以て、家の壁に練習せしものにて、之か爲壁は、其の考によりて描きたる形の痕跡、模様、

生物、形象、線等を以て充さる。而して肖像の内には、チャールス一世、ドグナル、ドン、及びグランサム校に於て師事せしズトグ等の頭首あり又禽獸、人類、船舶、其の他數理上の表式等、雜然たるを見る。此の壁、千七百十一年、其の家の破壊せらるゝ迄は存せりき。

ニユートン又特に、詩句を作るに卓越せることは、世自から定評あるも、今に至つて、斷翰零墨も、確然之を徵すべきもの存するなし。而して彼は、晩年屢々、自から其の詩を好まざることを説けり

ニユートン、十五歳に達するや、母の園圃の小作事務に任ずるが爲に、グランサムの學校より、家に呼ば還され、其の後屢々、穀物其の他の農産物賣却の事に従ひ、グランサムの市場に送られしが



彼は大抵、之を其の伴ふ所の老僕に托し、己は先づ、嘗て自から樂みたる、書籍の包みを藏せる樓上に至り、其の包装を探りて後、身をウールソーブとグランサムの間の路傍に潜め、老僕の市場より歸り来る迄は、書見に耽るを常とせり。

是に於て、其の母之を牧場に送り、羊及び牧畜を監せしむ、然れども、ニュートンは、概ね其の書冊を手にして、樹下に踞するにあらざれば、即ちナイフを以て摸型を刻するか、園圃の側、清流の涯りに在る、揺掛水車の回轉を凝視せり、

其の始めて科學的實驗をなせるは、實に千六百五十八年、大暴風の時にして、恰も、彼の、クロムウエル歿したる時にして、ニュートン、齡漸く十六歳に達せる折なりき。

偶々其の母、叔父と共にニュートンが東籬の下

に箕居して、數學上の問題を解せんとし、凝神世を忘るゝものあるに及び、其の、到底農圃の間に生を安んずるものにあらざるを知り、遂に再び、グランサムの學校に送り、後英の三大學の一なるケムブリッジに入學せしめぬ、之れ後にニュートンの天稟を發揮せしむる源泉を涵養せし所なり。

其の學校に在るや、サンダーソンの論理、ケプラーの光學の如き、講師の講話を俟たずして、早く既に、之を咀嚼し盡せるが如き、一千六百六十四年、慧星觀測に於て、最も其の不撓の精力を發揮せるが如き、又一千六百六十五年、微分法を發明せるが如き、園圃の間に在りて、梨の實の梢より墜下するを見て、遂に動の大法則を確立せるが如き、光學應用の第一着に於て、光線の三稜玻璃分解を會得せるが如きに至つては、到底、今之を

詳述する暇あらざるなり。

然りと雖ども、今此の傳を終るに臨み、此の偉人が、如何にして、斯くも偉大なる事業をなし、かに就て、遂に一言なきを得ず。

天の其の物を成す、決して偶然にわらず。一枝の花、一顆の實、豈徒爾ならんや。ニュートンの成功の如き、亦數の正に然らざるべからざるものゝつて存す、蓋し、其の天稟の賦性、自から卓越せるものありしに相違なしと雖ども、其をして益々光あらしめし所以のものは、其の堅忍不拔の志氣と、間斷なき考察の結果と相伴ふにわらずんば又期すべからざる所のみ。而して、ニュートンが發表せる、自己の其の勞役に付ての考察に至つては、識見卓抜、遠く世表に出で、自から異彩あるを見る、其の死に先だつ數時、語つて曰く、

「予何を以て世に知られしかを知らず、唯其の自から省みるに當りては、生涯の事、恰も海邊に在りて、時に波濤を潜つて、光澤異常の小石を索め或は珍奇の貝殻を探らんとして遊べる兒童の如くなりしのみ。此の間に於て、真理の大海は、自から前きに予の、發見せし所のものを給せるなり」と。

嗚呼之れ偉人謙讓の言なりと雖ども、之を聞いて果して奈何の感をなす。漂渺の天地測るべからず、人智の透徹する所知るべきのみ。吁是眞に、竟に測るべからざるか。否々、勉むること己れに在り。(完)

河野清子嬢よりの書狀

左の書面は、前に安井氏と共に暹羅に渡りたる

河野氏の、在校知友某氏に宛て送られたるもの一讀、彼地の状況を目前に髣髴せしむべく、頗る興味深ければ、乞ひ得て、抄寫する事としつ。(前略)御覽の通り、丁度私共の家の角は四辻に當つて居るので、前には道を隔て、川に向ひ、一方の前面は町家が澤山并んで居るのです、それ故階下は丸で窓を明けることが出来ず、真闇でありませう。道路はよほど廣く十間餘もありまして、人の通ふ路はやはり練瓦敷になつて居ます、それに電燈はいつまでも闇をてらしてゐます、當地にて驚くべき事は、道路の宜しいのと、市區の實に立派に出来て居て、町家は大概同じ形の家で、一町は皆一棟で出来て居ますのです。なぜ、かくよく出来て居るか、と、さゝますれば、それ等の家は、大概、皆皇族の方々の貸家であるといふことです。私共

の家も、王女の貸家と申す事です。ですから、整然と、整頓して、行義よく并んで、然も同形に造られて居るのです。朝になると、水まきが水をまいてあるく、かど掃除人がきれいに掃いてまわるほんとに所に似合はぬ程、街道などは清潔になつて居るのです。日本は此點から見ると、大に耻づべきである。

窓から見下して澤山見えるものは、犬、馬車、人力車、ハダカンポーです。犬はきれいなものは一つも見事はありません。大概、皆毛がぬけて病氣でもありそうな風で、それは、非常に多く居るのです、なぜかと聞きましたら、佛教の爲に殺さないといふのです。それで、散歩でもする人は大概、ステッキを持つて出ます、狂犬が随分居るからです、私共の女には、散歩などは、とても思

ひもよらぬ事です。

夕方になると、馬の數群、牛の數群が、一人の御者をもて川に導かれるのです。時によると、牛數匹がひとり町を散歩して居るのです。そこへ犬が出て来てたはひれて居るのですが、ほんとうに面白く思ひます。實にこれ等の畜ひものは柔順です、よく馴れてゐますのです。馬の小さい事には誠に驚きました。高は人の腹位しかありません。しかし、丈は随分長いから、始は何とも感じませんでした。人と比べて見て、始めて可笑く思ひました。

それから、ハダカンポーは、すてる程澤山あるのです、見る人も通る人も皆ハダカンポー許り、代り代り河に參りまして、沐みて垢をおとして行くのですが、夕方などは、やはりハダカンポーまで

數群になつて列を作らぬ許りに川に出掛けて身體を清潔にするのであります。しかし、どんな時にも、下半身を出さぬは、誠に不思議、いや感心いたしました。此處はやはり、日本人(下等人)は劣つて居ますね、女は下半身をかくした上に、乳をつゝんで居ます。大概洗足で歩いて居ます。見てゐてもたまらぬようです。

さて、此身體を洗ひ、牛馬を洗つた川水を、一方から、すんく酌み入れて使つて居るのです。かゝるものを洗はずとも、既に、ドブくんににぞつてゐる川水、此中に船を浮べて住んで居る人も澤山ある。不潔のものは、すんく此川の中に流れるであらう。それをかまはず用ふる水とするとは本氣の業では出来ぬ事である。飲用水は少しもないから、私共はかめに買つたのです(蒸溜水)水

盗人が居るといふ事も尤もの事である。人力車は實に滑稽である、乗つて居る人もハダカンポー、乗せる人もハダカンポー、こゝに一つのけじめが無い様だが矢張り異いがあるとみえて、これを見ればやはり下等から又下の下等があるのであらうかそれにまだ面白いのは、人力車が、たい並足であるて居るのです。まだ一度も走つて居る人力がないのです。いや人力が走つてゐないのではない。車夫が走らないので、乗つて居る人も平氣なんので實に呑氣です。それも其筈、人力車には中以上の人は乗らないんです。中以上の人は一頭か、二頭かの馬車で街道を乗り回すのです。これは矢張り東京では出来ない事です。其他演車もあり、電車もありますよ、東京などは、たゞ此間始めて、電車が置かれたでせう。當地では随分早くから

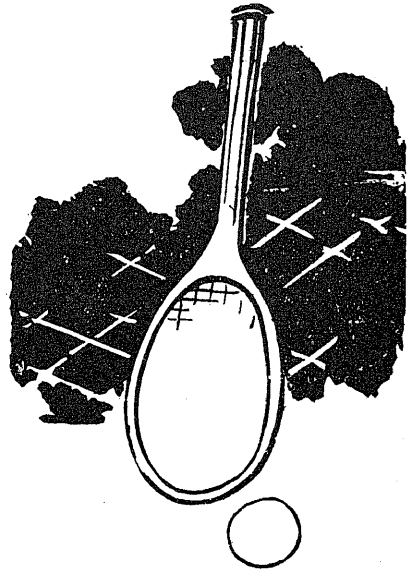
六十二  
 様です、たまに前を通行する中以上と思はれる人は、男女とも、上半身は洋服のようです、下は例の如く、布をまとひ、其一端を巻きては後方に挟み、膝より下は白の靴下、それに靴を穿つて居るので、其様子は、まことに私の氣に入つて居るのです。誠に身輕のいでたちです、學生なども頗る姿勢がよい、一筋に學校に向いて進んで行くやうに見える、道などで、ぶら／＼して居る様子は一つもない、これも、日本の方が劣つて居る様にして、何ともいはれぬ耻かしい氣持がする云々 (以下略)

He that hath mercy on the poor—happy is he.

Solomon.

不幸の者を憐む其人は幸福なり

ソロモン



幼児が唱歌の意味を理解したるまゝに直に動作に表出する事は自然の性に出づるものにて幼児の極めて愉快とするところなり今左に幼児が演演したるもの、二を擧ぐ

一、雲雀は歌ひ

雲雀は歌ひ蝶々は踊る春の野山に遊ぶは嬉しこゝにはよめ菜そこにはつくしたんぼゝすみれれんげ花をばとりて草をば摘みて内のかあさんへおみやにしませう

(歌詞)

雲雀は歌ひ蝶々は踊る春の野山に遊ぶはうれし

こゝにはよめ菜

そこにはつくしたんぼゝすみれれんげ花

この所動作なし

(動作)

右手の人さし指を以てそこによめ菜あるが如く近き所をさす

少しく遠方を指す

三つの花が其はとりにあるが如くに右手の人さし指を以て三度さす此時は右より左へ順次三度さす又左より右にする

右の腕前脇向とさす

りて一定せず

体を屈して地上の花を折り採

りて一定せず

草をば摘みて

内のかあさんへ

るようになす右手にてとり左

手に受くること四度

花の動作を速かになす

直立し兩手の掌を上に向けて

揃へ少しづつばめて物を載せる

形をなす

かみやにしませう 掌をひろげて手を少し前に押

し進む

## 二、人形

1 粗末にすなと母上の仰せ給ひし此人形着物を

着せて帯しめて箱の御殿にすわらせん

2 着物は縁帯は赤摸様は松にこぼれ梅なくなよ

泣くなお休みの日には花見に連れゆかん

3 わばれる鼠じやれる猫人形の家を破るなよ學

校すみて歸るまでまてよ我身をおとなしく

(歌詞)

粗末にすなと母上

の仰せ給ひし

此人形

着物をさせて

帯しめて

箱の御殿

すわらせん

六十四

(動作)

この所動作なし

人さし指を以てそこに人形の

ある如くに指す

兩手を肩の邊より袴にそへて

帯のところまでなかろす

兩手を帯の上につけ帯にそ

て前より後にまはす

兩手を前に延ばして指先さを

つさわはせ箱の形をなす又兩

手の指先を上に向けて合せ屋

根の形をなすつもり

兩手の掌を下にむけ水平にそ

ろへて少し下にさぐ又掌の上

着物きものはみどり

帯おびは赤あか

模様もようは松まつにこぼれ

梅うめ

泣なくなよなくな

に向むかくるもわり

右みぎ手て人ひとさし指ゆびを着き物ものの胸むねのあ

たりにつく

右みぎ手て人ひとさし指ゆびを以もつて帯おびをさす

左ひだり手てを以もつて左ひだりの袖そで口ぐちを輕かろく抑おさ

へて袖そでを張はり右みぎ手ての人ひとさし指ゆび

にて左ひだり袖そでの模も樣ようのある如ごとくに

さす而しかして松まつといふときは一

度ど梅うめのときは點てん々とわちこち

二三度さんさす

人じん形ぎやうを左さ方ほうに抱いだきたる樣さまをな

し左ひだり手てにかへ右みぎ手てを左ひだり手ての

内うち方ほうに添そへて動うごかし小こ供どもの泣な

きを止とむる有あり樣さまをなす(これ

は最もつとも喜よろこびてなす)

お休やすみの日ひには花はな

見みにつれゆかん

わばれるねすみ

じやれる猫ねこ

人じん形ぎやうの家いへ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

破やぶるなよ

この所ところの初はつは前まえの動どう作さくをつい

けをるもわり又またこゝより動どう作さく

せざるもわり花はな見みのところ

に至いたりては全またく動どう作さくせず

指し間かんを開ひらき出で來き得とるだけ早はやく

兩りやう手てを交か互ごに上じやう下げして鼠ねづみのあ

ばれる意いを表あらわはす

前まえの動どう作さくを極きまめて緩ゆるかになす

(右みぎ二につは男おとこ兒こ最もつとも喜よろこびてなす)

兩りやう手てのささを上うへに向むけてつさ

合あせ屋や根ねの形かたちをなす

右みぎ手てを左さ方ほうに向むけて三さん度ど振ふり

動うごかす(破やぶる真ま似ねをなす)

この所ところ動どう作さくなし

學がく校かうすみて歸かへるま



となしく

幼兒の理想

保母或時幼兒に向て大きくなりて後何になりた  
きかを問ふ一男兒答へて「お金が儲かるから車  
夫になりたい」と言ふ即ち各兒に付き何になり  
たきか、儲けし金を如何にするかを問ひて得た  
る答左の如し

(何になるか)

(金を如何にするか)

荷車を引いて海苔やなんかを  
賣りに行くのそれを賣てしま 洋服とサーベルと  
つて店で小僧をしてお金がで を買ふ  
きたら銀行にいらしてそしてし  
まひにお金持になる  
帽子屋になつて帽子をお店へ 阿母さんに上げる

持つて行く

お養餅屋になつてしたぢをつ  
けて焼いて人が買ひに來たら  
て遣る  
あかんばに靴を買

賣る

車夫さんになりたいお金が儲  
かるから其お金で着物を買ふ  
着物をよむすと阿母さんに叱  
られるから

八百屋

銀行に預ける

牛肉屋

銀行に預けて置い  
てラツパを買ふ

以上男兒

簪屋

着物を買ふ

玩具屋

玩具を買ふ

烟草屋

着物と風船を買ふ

反物屋

烟草屋

牛乳屋

肩掛を買ふ

簪を買ふ

風船を買ふ

以上女兒

右は滿六年以上六歳十一月に至る幼児

左の條項は、大阪川口二十五番ダニエル氏より送附せられたるものなり、

### 小兒に關する取調

一、嬰兒に現はるゝ愛情の最初の徴候は如何なるものなるや、而して誰に對して最初に其愛情は現はるゝか、又其愛情は如何様にして現はされしか、如何なる程度迄其は自然なるや元來嬰兒の依頼心は粹然たる感情より起れるものなるか、果た單に肉体の安慰を得ん爲に起れるものなるか、明かに示されたし、

二、極幼少の頃より幼年迄の間に同性（男性同士

或は女性同志）又は異性間に表はれたる友情を

明記し且つ智育、徳育、体育上に如何なる關係

を及ぼせしかを示されたし、而して猶友情を結

びたる兩小兒の年齢と其友情の永續せる年限と

を記し其結果は善かりしか、果た惡しかりし

か、果た無効なりしかを述べられたし、

三、小兒の嫌惡する所のものは何なるかを列擧さ

れよ、而して如何にして其嫌惡の念は現はされ

るや、而して猶其嫌惡は生理上よりか或は又或

る特種のをに對して起りしか果た心理上若くは

徳義上に起因せるか是等を特に注意して出來得

る限り原因を逆上りて取調ありたし、

四、若し或る小兒の團體につき視察し得る機會あ

らば其團體の全數に比較して殊に友誼を結べる

もの、數幾人ありや、又是等友誼を結べるもの  
 等が其團體中の他の小兒等に如何なる方法によ  
 りて干渉するや之を詳細に記述し且つ斯る小兒

等の年齢及男女何れの性なるか述べられたし  
 右個條はクラーク大學校よりは是等の間に對し

ての答書を集むる事を小妹に依頼されたる者  
 なれば誠に御面倒なる御願にて恐縮の至に存  
 じ候得共何卒悉敷取調べ御返書預り度偏に願  
 上奉り候

西區川口町廿五番館

ダニエル

陣中佳話(露國小女の從軍)

デリー、テレグラムの巴里通信員が、此頃旅順の  
 露軍中にて見たる所なりとて傳へたる一片可憐の

情話の電報新聞に記載せられたる面白き物語は次  
 の如し。

永世不落と頼みつる旅順も、既に艦を失ひ將を殺  
 し、港口は閉塞され陸上通路は絶ゆるなど、今は  
 餘喘を保つのみにて、止り残れる守備隊も半夜の  
 夢は甚ど冷かなるを嘆つに至りたるが、此守備隊  
 の中西比利亚聯隊に屬する一人の兵卒あり、リヤ  
 トニコツフと名乗る者なるが容顏の麗しき、万縁  
 叢中の紅とも見え、何時も隊中の噂に上りては愛  
 で者となり居たり、此美少年應て選ばれてさる若  
 き士官の從卒となり、其より其營舎に同宿する事  
 と成りしが、或る日の事、彼は主用にて外出し、  
 誤ちて其脚を挫折したるにぞ、係の者は例のやう  
 に彼を病院に送らんとしたるに、如何なる故にや  
 彼は入院さるゝを忌む事甚だしく頻りにも拒みて

止まざりしが、さた止むべくもあらで強制したるに、彼は到底も拒み難きを見るや、突然にもペンナイフを以て其左腕の動脈を斷ちたり、斯くて病院に送られ、病床に移されて、愈よ施術せんとして着衣を脱せしめたるに、驚くべし此兵卒と見えたる美少年は誠は男装せる少女にして、妙齡十八風に耐ふまじき身ならんとは、少女は病院に在る事三日なりしが出血の甚だしかりし爲、遂に果敢なくも死去りたり、さて斯かる少女の、如何なれば丈夫も難しとする戰場に立難り、男子の装までもして人目を避けたるかと思ふに、此には憐れにも優しき物語あり、畏しきは戀の力かな、此少女は本國に在りし折、年若き一士官に思を寄せて朝に夜に夢に驚き夢に泣く身となりしが、斯くまで思ふ戀も遂げられで、やがては身をも世をも果

敢なみぬたりしが、偶ま此度の事起りて、其士官は遠く異域の果にまで出征する事と成りたるにぞ少女は一人本國に止まりて物思ひをるに堪へず、如何にもして姿も見聲も聞き得る身と成らんとて斯く甲斐々々しくも装を變へて跡を慕ひ來りしなり、然るに深き縁にや擇ばれて思へる士官の從卒とまで成り得しに、嬉しくて心の中をも告げたるに、士官は如何に思ひてか其請を容れざるにぞ、されど何時かは士官の心の解くる折もあらんかと果敢なき望をも思ひ頼みせめては、其人の下に侍き方便なき行軍の佞びしさを慰め得るを樂みに身をも心をも捧げぬたりし中、偶ま不慮の事よりして其身分の發覺せんとするに、少女心の思迫りて吾と吾命を斷つに至りしなり、此憫なる様を見るや、流石氣強き士官も心折れて、其身の無情なり

しを悔いてにや、程なくも其營舎の内にて、腦骨を碎きて少女の跡を逐ひたりとか

フレーベル會俳句端書集

一、課題 牡丹、螢、夏の月、田植、夕立、

(凡べて一人十句以下)

一、べ切 六月廿五日限り

一、披露 八月發行本誌文苑欄

一、賞品 天地人三座には美景を呈す

一、撰者 當分本會の撰とす、

一、投稿 本誌購讀者は何人にも投吟すること

を得用紙は端書に限り(可成繪端書に記載せ

られたし)住所氏名雅號を明記し都合上必ら

ず左の名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零

●雜吟十句(結幼稚園)

無一庵奇零

朝風の青葉若葉や幼稚園  
春風に赤きリボンや幼稚園  
オルガンのもれてのどかや幼稚園  
休み日や蝶舞ふ盡の幼稚園  
菫つむ裏の小土手や幼稚園  
花折て叱らるゝ子や幼稚園  
葉櫻に冷たき朝や幼稚園  
青梅に石投げける子や幼稚園  
雨の日や若葉にくらき幼稚園  
鞦韆の日暮閑なり幼稚園



雜 報

女子高等師範學校

▲生徒募集

同校にては、今回新に數學物理化學專修科を設け

右生徒二十六名を募集せり。

該科規則、試驗期日等は左の如し

| 學科   | 第一學年                      |      |                  | 第二學年             |                  |                  | 第三學年             |                  |                  |
|------|---------------------------|------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|      | 第一學期                      | 第二學期 | 第三學期             | 第一學期             | 第二學期             | 第三學期             | 第一學期             | 第二學期             | 第三學期             |
| 倫理   | 人倫道<br>一、德ノ要              | 一、全上 | 一、全上             | 一、全上             | 一、全上             | 一、全上             | 一、全上             | 一、全上             | 一、全上             |
| 教育學  | 三、應用心<br>理學               | 三、全上 | 三、全上             | 三、教育ノ<br>原理      | 三、全上             | 三、全上             | 三、全上             | 三、全上             | 三、全上             |
| 外國語  | 三、                        | 三、   | 三、               | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               |
| 數學   | (四)算術<br>八、(三)代數<br>(三)幾何 | 八、全上 | 七、(三)<br>全上七、    | 全上七、             | 全上七、             | 全上七、             | 全上七、             | 全上七、             | 全上七、             |
| 物理   | 三、力                       | 三、全上 | 三、音              | 三、光              | 三、光              | 三、熱              | 三、熱              | 三、熱              | 三、熱              |
| 化學   | 三、化學通論<br>三、無機化學          | 三、全上 | 三、無機化學<br>三、有機化學 | 三、無機化學<br>三、有機化學 | 三、無機化學<br>三、有機化學 | 三、無機化學<br>三、有機化學 | 三、無機化學<br>三、有機化學 | 三、無機化學<br>三、有機化學 | 三、無機化學<br>三、有機化學 |
| 地質鑛物 |                           | 二、   | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               | 二、               |

第一條 本校規則第八章ニ基キ私費數學物理化學

專修科ヲ設ク

第二條 數學物理化學專修科ノ學科ハ倫理、教育

外國語、數學、物理、化學、地質鑛物、體操ト

ス

第三條 生徒ノ定員ハ二十六名トス

第四條 修業年限ハ二箇年二學期トス

第五條 學科課程ハ左ノ如シ

|    |     |     |     |     |     |     |     |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 體操 | 三、  | 三、  | 三、  | 三、  | 三、  | 三、  | 三、  |
| 合計 | 二四、 | 二八、 | 二八、 | 二八、 | 二八、 | 二八、 | 二八、 |

第三學年ニ於テ教育中學授業法ノ時間内ニ便宜實地授業ヲ練習セシム

第六條 生徒ハ左ノ資格ヲ有スル入學志願者ヨリ

試験ノ上入學セシム、

一、品行方正身體健全ニシテ教員タルニ適當ナ

リト認ムル者

二、修業年限四箇年ノ官公立高等女學校卒業生

及ヒ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

三、年齢十七年以上三十年未満（本年九月一日

調ニテ）ニシテ夫ヲ有セザル者

第七條 入學試験ノ科目ハ左ノ如シ

體格 國語 讀文 算術  
 理科 植物、動物、生理 幾何、初歩  
 物理、化學

附記

專修科生志願ノ者ニハ左式ノ願書ニ第十七條書式ノ履歷書並ニ戶籍抄本ヲ添へ差出サシム

入學願書

私儀女子師範學校師範學校女子部高等女學校教員志望ニ付御試験ノ上御校 學物理化學專修科生トシテ入學ノ儀御許可被成下度此段相願候也

年月日

原籍 族籍（寄留者ハ寄留籍ヲ併記スベシ）

戶主何某幾女姉妹等（本人戶主ニアラザレバ）

本人

何

某

印

女子高等師範學校長殿

履 歴 書

原籍、族籍(寄留者ハ寄留籍ヲ併記スベシ)  
月主何某 妻女 姉妹等(本人月主ニアラザレバ)  
生 所 何々

何

生 年 月 日 某

一 卒業證書免許状

何年何月何日官、道廳、府、縣、市、町、村、(私)立何學校ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク(證書寫ヲ添フベシ)  
何年何月何日何所ニ於テ何免許狀ヲ受ク(免許狀寫ヲ添フベシ)

一 學業

何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何所何某ニ就キ何學科ヲ修業ス何年何月何日官、道廳、府、縣、市、町、村(私)立學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月何日卒業或ハ何々ニ付半途退學シ或ハ現ニ何箇年ノ課程ヲ卒フ

一 職 業

何年何月何日何 北海道廳 府ニ於テ訓導拜命何國何市、郡何學校ニ在勤何年何月何日依願免官或ハ現今在勤等

一 賞 罰

何年何月何日何所ニ於テ何々ニ付賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ク等  
右之通相違無之候也

年 月 日

右 何

某 ⑧

尙、地方師範學校卒業生にして、服務年限中の者及奉職中の者は、其所轄地方長官の許可書を得て添附すべく、入學試験は、全校に於て施行

すべければ、左記の日割に従ひ午前七時卅分までに  
出校すべしとなり。

九月五日 體格。 同六日 國語、理科。



同日 理科。 同八日 數學。

職員異同

附屬小學校に於て久しく教鞭を取られし高山文氏は、先月新潟縣高田高等女學校教諭兼舎監に榮轉せられ、戸倉雅氏囑託として來任せり。

運動會

先月二十二日の日曜日、降りみ降らず初五月雨の定めなき日和として、朝の中は、如何あらんと危まれしに、幸にも九時過ぐる頃よりは、近來稀なる好天氣となり、附屬女學校の運動會は、豫定の如く中學校構内に催うされぬ。非常の盛會にて、觀覽人は午前中よりひし〜とつめかけ、午後には全く、隙もなくなりぬ、運動は、例の如く頗る活發に行はれ、昨年に比しては、更に幾多進歩の跡

あり、殊に、野戰電信、野戰病院競争の如きは、時節柄一層注目を引きたるが如し

日本音樂會

會長鍋島侯爵の主催にかゝる全會恤兵部寄附音樂會は、先月廿一日、上野音樂學校に開かれたり。幸田幸子のバイオリン、ケーベル及幸田延子のピアノ合奏等は言ふまでもなく此日の呼物たりしが別しては、彼カイゼル嬢の高音獨唱、たゞ此妙音に接せんかなとて出掛けし人々も多かりしなるべし。但し、例の演奏會とは違ひ、多勢の合唱などのなかりしは素人の聽衆には、物足らぬ心地せられしなるべく、尙、第二部の能二曲は、一般の聽衆には殆んど、趣味なかりしやうにて、大方は取り残して歸り去りしは、折柄の降雨の爲めのみ

はあらざりしと覺へたり。

尚、二十九日には小石川植物園内に於て、陸海軍樂隊の音楽と、東京府下諸學校生徒の合唱とあり。唱歌は、全會が前に廣く募集して撰定したるもの、何れも、面白く、就中、征夷歌 廣瀬中佐、海軍の三曲殊に感動を與へたるが如し。

### 音樂學校春期演奏會

本月五日開かるべき筈、プログラムは左の如し。

#### 第一部

- 一、管絃合奏  
オーヴァチュア  
職員及生徒
- 二、合唱  
甲 新緑の賦  
武島又次 耶作曲  
乙 鴨綠江  
鳥居 忱作曲  
助教授 神 戸 絢  
モツアルト作曲
- 三、ピアノ獨奏  
コンセルト

#### 四、ヴァイオリン獨奏

コンセルト

教師 アラゴスト、ユンケル

#### 五、三部合唱

生徒 柴田 千笑 鈴木 環

#### 六、管絃合奏

リフト、ザイン、アイス  
メンデルスゾーン作曲  
職員及生徒

#### 一、合唱

オルフォイス

職員及生徒  
ゾルツク作曲

## 會 報

五月十一日午後二時より女子高等師範學校附屬幼稚園内に於て幹事會を開き幹事分擔に付き協議し其結果左の如く定まりたり

#### 一 事務分擔

- 一庶務 野口ゆか 田中ふみ 大橋いぬ 關すが
- 會員入退會、名簿整理、會合の整理
- 所有品保管、文書往復、本會合記帳

一、會計 (雨森せん、武井もとえ)

會計其他金繰ノ收入支出保管

會計帳簿ノ整理、茶菓ノ用意

一、雜誌 下田たづ、松村ひさ、小關せい、和田くら、

特別會計管理、雜誌發送、雜誌ノ法文販賣、

當日の出席者は中村主幹、大橋、武井、和田、松村、小關、雨森、野口、下田、田中幹事なりき。

寄附

一金貳圓

會員、近藤ハマ子

入會

北海道釧路國釧路郡西帯舞村鐵道官會

阿部 長

廣島縣安藝國安佐郡飯室村西尋常小學校

右紹介高羽ふみ 山本いさみ

靜岡縣田方郡上狩野村

右紹介高羽ふみ 大川た枝

和歌山縣那賀郡小倉村大字蒲屋

右事務所申込 湯川たき子

女子高等師範學校

右紹介中村五六 小出未吉

轉居

仙臺市東三番町六九へ

立花せん

七十六

廣島縣吳市和庄町字檜垣へ

京都市綾小路室町東入皇典研究所へ

日向國宮崎町廣島澁谷方へ

長野縣師範學校女子部へ

大阪市東區島町一丁目二番地へ

廣島縣立高等女學校へ

山梨縣高等女學校へ

神田區神田共立女學校へ

滋賀縣立大津高等女學校へ

神田區三崎町三丁目一ノ一八へ

日本橋區通り二丁目九番地へ

麹町區下二番町二六へ

麹町區下二番町五八へ

牛込區下宮比町六へ

京都市室町通り竹屋町上ルへ

山形縣女子師範學校へ

靜岡縣靜岡市東草深町三ノ八へ

改姓

下條ます

阿知和早苗

磯細せい

藤野ついで

秋山恒子

下瀬龍野

永井まゆみ

保井この

宮地榮

山口ほさ

橋本はな

喜多村歌子

森本たみ

小岩えい

福本とみ

吉野ふみ

松木かつ

大津改 永井まん

福本改 山下とみ

會費領收

自明治三十七年四月廿五日 至全 五月廿五日

金額

年月日

一五〇 三六、二一三八、二

姓名

平岩繁治

|     |            |       |
|-----|------------|-------|
| 一〇〇 | 三六、五——三七、二 | 酒井冬子  |
| 一一〇 | 三七、四——三八、三 | 船水やする |
| 一二〇 | 三七、四——三七、九 | 柏木ふさ  |
| 一〇〇 | 三七、四       | 加藤きつ  |
| 一〇〇 | 三七、四       | 藤谷いわ  |
| 一〇〇 | 三七、四       | 岩田ゆき  |
| 一〇〇 | 三七、四       | 内田たね  |
| 一〇〇 | 三七、四       | 益田一枝  |
| 一〇〇 | 三七、五——三八、二 | 坂田ふさ  |
| 五〇  | 三七、五——三七、九 | 立花せん  |
| 五〇  | 三七、四——三七、八 | 原ちかし  |
| 一一〇 | 三七、四——三八、三 | 和田くら  |
| 一二〇 | 三七、五——三八、四 | 鹽野吉兵衛 |
| 六〇  | 三七、一——三七、六 | 溝口けい  |
| 三〇  | 三七、二——三七、四 | 織田秀喜  |
| 一一〇 | 三七、六——三八、五 | 磯畑せい  |
| 一一〇 | 三五、八——三六、七 | 三田利徳  |
| 二八〇 | 三三、五——三六、八 | 富永そのの |
| 二〇〇 | 三五、一——三七、七 | 三宅はな  |
| 一五〇 | 三六、四——三七、六 | 河合ちよ  |
| 一一〇 | 三五、七——三六、六 | 福田ふく  |
| 一一〇 | 三五、四——三六、三 | 樋口みね  |
| 一〇〇 | 三五、九——三六、六 | 矢澤わか  |
| 一一〇 | 三七、五——三八、四 | 小林千年  |

|     |             |         |
|-----|-------------|---------|
| 一〇〇 | 三六、一〇——三七、七 | 福富りき    |
| 五〇  | 三七、五——三七、九  | 阿部長     |
| 一〇〇 | 三六、一——三七、九  | 安野美知    |
| 一〇  | 三六、一        | 只野 續    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 高橋忠次郎   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 野田則文    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 森岩太郎    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 喜多見佐喜   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 佐伯外浪    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 波多野とく   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 武田きん    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 南摩まき    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 矢作てつ    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 山口西三郎   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 小池おつ    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 西島富壽    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 今立 裕    |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 吉村千鶴    |
| 六〇  | 三七、四——三七、九  | 魚崎あさ子   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 鳥居 敏三郎  |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 谷田部 じゆん |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 後閑 菊野   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 横山 榮次   |
| 二〇  | 三七、三——三七、四  | 堀越 源次郎  |



家庭改題

佛教婦人

▲毎月五日発行 ▲一部前金六錢  
▲一年分金七十二錢 (郵税共)

女子師範學校や高等女學校の生徒にして佛教の信仰を得たい人の爲に毎月發行されるのが此佛教婦人であり、ます戰時愈必要を感じて來るのは宗教でありまして宗教は實に至善至樂の境遇に至るを教ふる者であり、ます倫理と宗教は共に修養上必要な者で人の一日も欠く可からざる者と信します本誌發行の目的は之れより外にはありませぬ

家庭社編

(新刊)

家庭話の園

▲價三十錢 ▲郵税四錢  
▲紙數二百 ▲製本頗美

本書には御伽噺あり譬喩談あり小説あり實譚あり信仰暖き話もあれば滑稽極まる談もあり何でもござれ種々集めて夏の家庭の讀物として著作された者である愉快と實益とを得たい人は速に本書を讀んで御覽なさい戰時の閑日月を送るとして最も適當の者であります

家庭改題

佛教婦人

第四卷 第五號 目次

▲本領

- ◎佛教者の豫言 記者
- ◎如來の方便 同
- ◎愛と不幸 同
- ◎過 同
- ◎自心の反影 同

▲講話

- ◎宗教と倫理 橋川徳龍
- ◎同情の源泉 藤井信悟

▲詞藻

- ◎摩訶曼陀羅 土佐白風
- ◎春の歌 西澤ふみ
- ◎紅葩 松溪夕村

▲譚苑

- ◎勢野の淵(小説) 瓶外
- ◎微笑 白崎
- ◎さくら狩 かつら子

▲雜纂

- ◎善信尼(史傳) 山田文照
- ◎晩喰後 梨花
- ◎我家と我 潮水

▲報道

- ◎内外報 本
- ◎新刊紹介 同

發行所 東京巢鴨 二二五五 家庭社

# 夏季女子講習會廣告

本會は女教員及び一般女子に必須なる智識と技能とを得しめ以て教育の改進を計り且女子の品位を高めんが爲め左記要項に依り本年八月夏季女子講習會を開催せんとす希はくば有志女子の奮つて入會し本會をして所期を達するを得しめ而して此の國家の進運に際し實力をして益々内に充溢する所あらしめんことを

明治卅七年五月

東京市神田橋外  
(電話本局七八八)

## 東京府教育會

### 夏季女子講習會要項

本年八月一日より凡そ三週間毎日午前七時より正午まで

#### 一、日時

#### 二、學科及び講師

(一) 教育 (凡そ二十時間) 講 師 女子高等師範學校教授 黒田定治君

(二) 國語 (凡そ二十時間) 講 師 東京高等師範學校教授 吉田彌平君

(三) 音樂 (凡そ四十時間) 講 師 東京高等師範學校教授 鈴木米次郎君

(四) 家庭衛生 (凡そ二十時間) 講 師 相當なる方法を立て素養ある者にも素養なき者にも遺憾なく得る所あらしめんことを期す  
醫學士 三好常三郎君

家庭衛生の一般に涉りて講習し且傷病手當のことを説き特に兒童に關して多く注意を加ふべし

三、講習料 一科一圓二十錢音樂は一圓六十錢本會會員、生徒、講習生は十錢減二科二圓音樂兼習は二圓五十錢本會會員、生徒、講習生は一割減以下同じ

四、證明狀 出席の度數を案して授與す

五、入會申込 入會せんとする者は氏名宿所族籍職業を記したる書面を以て(用紙半紙)七月十五日までに申込むべし

大日本制烹學會内石井式制烹教場廣告

女子手藝學科增加

○制烹教授法ニ付キ調査ノ所大キニ其必用ヲ感シタルニ由テ六月一日ヨリ制烹教場家庭料理日曜授業部ヘ左ノ學科増加ス

○花結はなむすび ひもむすび ともいへり

○綵花つくりはな ともいふ

○識絹おきあひ つまみざいく ともいへり

以上日曜日午前授業制烹全科午後授業

業○本科制烹增加手藝ニテ授業一ヶ月謝金壹圓○増加手藝ノミ習學一ヶ月謝金五拾錢日曜午前授業○家庭料理部金曜授業部ヘ實用西洋料理部(水曜授業)ヲ増加ス○本科及増加兼修ニテ授業料一ヶ月謝金壹圓○増加西洋料理部ノミ習學一ヶ月謝金五拾錢第一第三水曜午後授業○以上ノ家庭料理部實用西洋料理部ノ外ニ特ニ日用惣菜料理部アリ是制烹教授法研究科トシテ又制烹教員養成科トシテ設置スル所ナリ土曜日午後授業ス

女子制烹夏期講習會 會員募集

來ル八月二日ヨリ十日間京都市舊鹽津女學校(御幸町二條下ル西側)ニ於テ本會第三回女子作法夏期講習會及第二回女子制烹夏期講習會ヲ開會ス

一 學科 ○日用實用法 ○高等女學校教授程度(作法制烹共) ○簡易婚禮式

一 講師 本邦料理師範八世 石井治兵衛 宮中式臣民式作法及制烹講師 石井泰次郎

○入會希望者ハ七月二十五日迄ニ名簿ニ講習料ヲ添テ本會事務所又ハ京都市御幸町二條下ル西側鹽津市氏宛ニテ申込ムベシ

○講習時間及講習料其他詳細規則書アリ入用ノ方ハ郵券封入申越サレタシ

明治三十七年六月

東京市京橋區  
鈴木町十一番地

大日本禮節學會

同所 大日本制烹學會

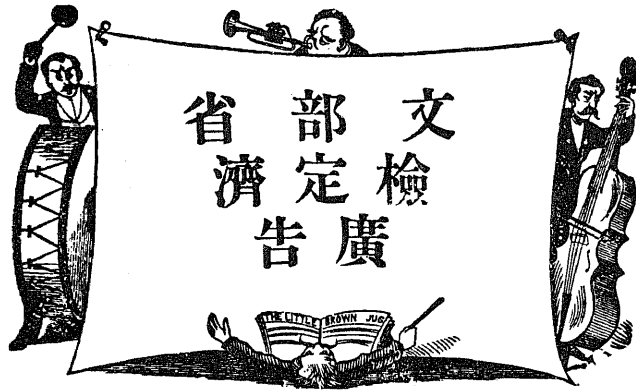


空前の唱歌良教科書！  
檢定済生徒用唱歌教科書の嚆矢  
文部省檢定済

# 唱歌教科書

郵税一冊に就き金四錢

|           |             |
|-----------|-------------|
| 教師用 全四冊   | 第一卷定價金三十錢   |
| 生徒用 全四冊   | 第一卷定價金三十錢   |
| 第一卷定價金三十錢 | 第二卷定價金三十錢   |
| 第二卷定價金三十錢 | 第三卷定價金三十錢   |
| 第三卷定價金三十錢 | 第四卷定價金三十錢   |
| 第四卷定價金三十錢 | 全四冊定價金一百二十錢 |



發行以來唯一の完全なる唱歌教科書と  
して非常なる大喝采  
を博し僅々數月間に  
三版發行の盛運に會  
したる本書は今回其  
生徒用教師用共に文  
部省の檢定を経て更  
らに其眞價を發揮す  
るの榮を得たり  
從來文部省檢定済と  
歌集に悉く参考書と  
即ち許可せられたる  
のみにして生徒用とし  
は眞の教科書たるもの  
は檢定を経たるもの  
は實に本書か如何なる  
り以て本書か如何なる  
該科の教授上最完全  
なる良書たるかを全  
るに足るべし

● 洋 琴 金參百圓以上 各種  
● ヴァイオリン 貳千圓迄 各種

● 鈴木製 金五圓以上五拾圓迄 各種  
● 舶來品 八圓以上百五拾圓迄 各種

● 樂隊用樂器

● 大太鼓 金貳拾圓以上 小太鼓 八圓半以上 シンバル 金四圓以上 其他バス、バリトン、テナー、アルト、コルネット、トロンボン等 金貳拾圓以上 百六拾圓迄

● 鼓隊用樂器

太鼓 金貳拾圓以上 橫笛 金壹圓以上  
○ 學校用一組拾參圓

● 手風琴 金貳圓五拾錢以上 參拾圓迄 各種

● 保險 山葉風琴 定價 金拾六圓五拾錢 以上 金貳百圓迄

○ 右の外兩用風琴、吹奏琴、ハーモニカ、フラジョレット其他各樂器並に和洋音樂附屬品各種

● ビアノ、調律修繕

● オルガン

明治三十四年二月廿八日第三種郵便物認可